



2025年8月期

通期決算説明資料

株式会社トリプルアイズ
(証券コード5026)

CONTENTS

2025年 8 月期 通期業績

売上高

5,714百万円

(前期比：129.6%)
(修正後計画比：101.1%)

連結業績

- BEX社のPLがフルで連結された（前期は2ヶ月分のみ連結）ことにより、売上高及び経常利益が大きく増加
- 一方で、AIソリューション事業のエンジニアリングサブセグメントにおける人員減に伴う売上減少や、昇給による人件費増加、GPUサーバー事業における税制改正に伴う売上減少や棚卸資産評価損286百万円等により、当期純利益は減益で着地

経常利益

59百万円

(前期比：125.9%)
(修正後計画比：+56百万円)

AI
ソリューション

- 「AIインテグレーション」における単価上昇、生成AI関連の開発需要増に伴うAIラボ契約拡大、ゲームカード・ジョイコホールディングス社からの案件受注拡大などが売上及び利益拡大に寄与
- 「エンジニアリング」においては高稼働率を維持しているものの、5月に臨時賞与32百万円を支給人員減による3Q会計期間の赤字が響き、3Q以降利益水準が低下

当期純利益

△343百万円

(前期比：△420百万円)
(修正後計画比：+31百万円)

GPUサーバー

- 令和7年度税制改正を受けて、4Qはマイニングマシンの販売が減少し、AI開発用途向けGPUサーバーの販売が本格化したものの、通期の経常利益は少額ながら赤字で着地
- 暗号資産相場が堅調に推移し、暗号資産評価益48百万円、暗号資産売却益11百万円を通期で計上
- 暗号資産事業における包括的協業を締結などを通じて、暗号資産トレジャリー事業支援開始

第3四半期時点の業績予想開示の数値から、営業利益は21百万円、経常利益は56百万円改善(詳細は適時開示)

(単位：百万円)	2024年8月期 通期実績	2025年8月期 通期実績	前期比	2025年8月期 通期計画 (業績予想修正後)	達成率
売上高	4,410	5,714	129.6%	5,650	101.1%
売上総利益	1,474	1,731	117.5%	1,740	99.5%
営業利益・損失(△)	38	△ 61	—	△83	—
EBITDA	225	298	132.3%	222	133.9%
経常利益	47	59	125.9%	3	1,883.0%
当期利益・損失(△)	76	△ 343	—	△375	—

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息
Copyright © TRIPLEIZE Co., Ltd. All right Reserved

	AIソリューション事業			GPUサーバー事業		
	2024年8月期 通期実績	2025年8月期 通期実績	前年同期比	2024年8月期 通期実績	2025年8月期 通期実績	前年同期比
(単位：百万円)						
売上高	3,062	4,626	151.1%	1,381	1,101	79.7%
売上総利益	792	1,200	151.5%	681	542	79.6%
営業利益・損失(△)	2	41	1,962.4%	2	△ 105	—
EBITDA	66	153	229.7%	158	144	91.3%
経常利益	28	59	212.9%	19	△ 0	—

※EBITDA = 経常利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 支払利息

※セグメント別業績については、2025年8月期からの経営指導料等の計上区分変更の会計方針の変更に伴い、2024年8月期の実績を遡及修正しています

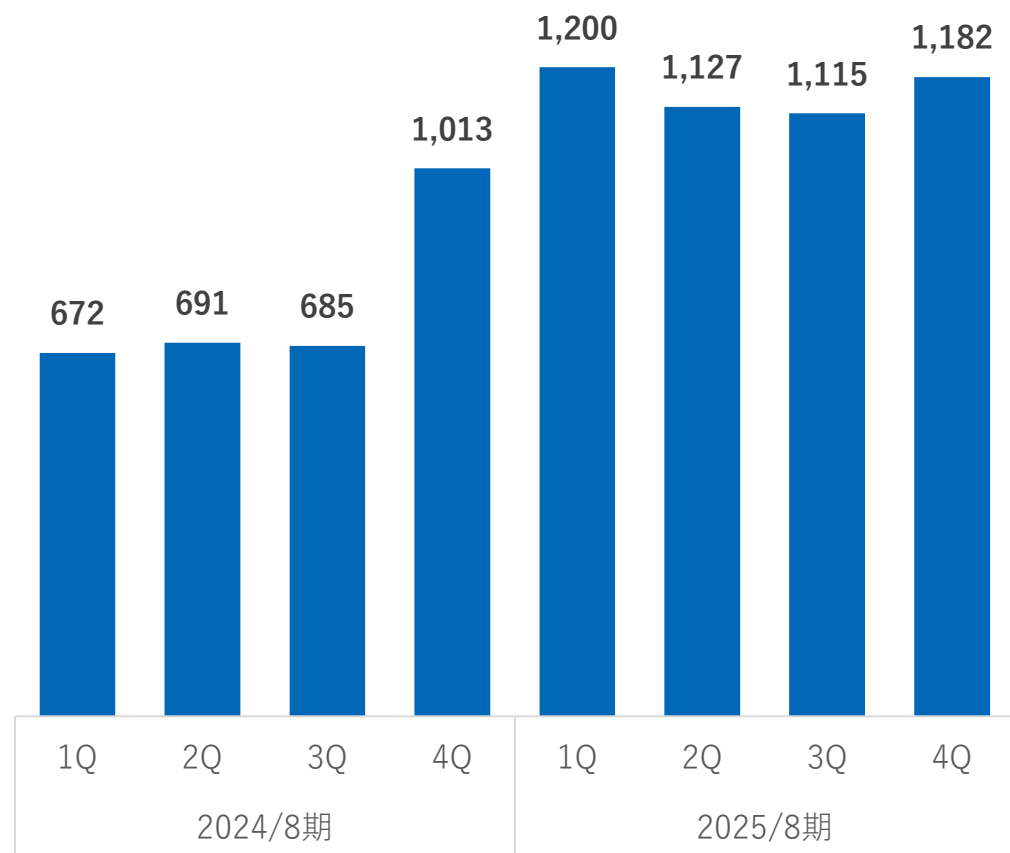
当社グループの事業セグメント及びサブセグメントの事業概要及び担当会社は下記の通り

セグメント	AIソリューション			GPUサーバー
	AIインテグレーション	AIプロダクト	エンジニアリング	
サブセグメント				
事業概要	AI/システムの開発、AIに関するコンサルティング、業種別パッケージの導入等	顔認証AIや画像認識AIを搭載した自社サービス提供による月額利用料及びサービス提供に伴って生じるデバイスやカスタマイズ開発	主に自動車メーカー向けの設計開発業務の役務提供	独自開発ソフトを搭載したGPUマシンやモジュール型データセンター「DINO」、AI向けGPUサーバーの提供に加え、それらに伴う保守管理サービスを展開
	●	●		
			●	
				●

AIソリューション事業においては、3Qにエンジニアリングサブセグメントにおける人員減、臨時賞与32百万円の支給等の影響で3Qに営業損失を計上も、4Qに人員増及び稼働率上昇を背景とした売上高の増加により、通期売上高4,626百万円、経常利益59百万円で着地し、前期比で大きく成長

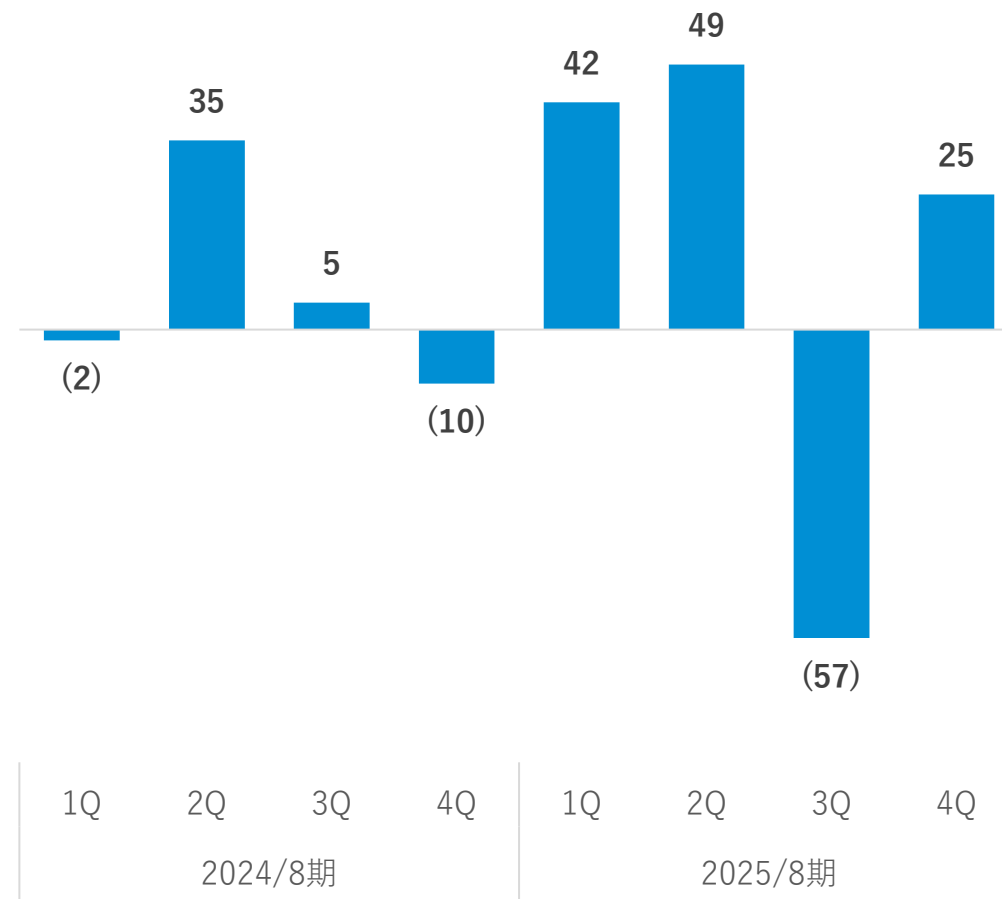
売上高

(単位:百万円)



経常利益

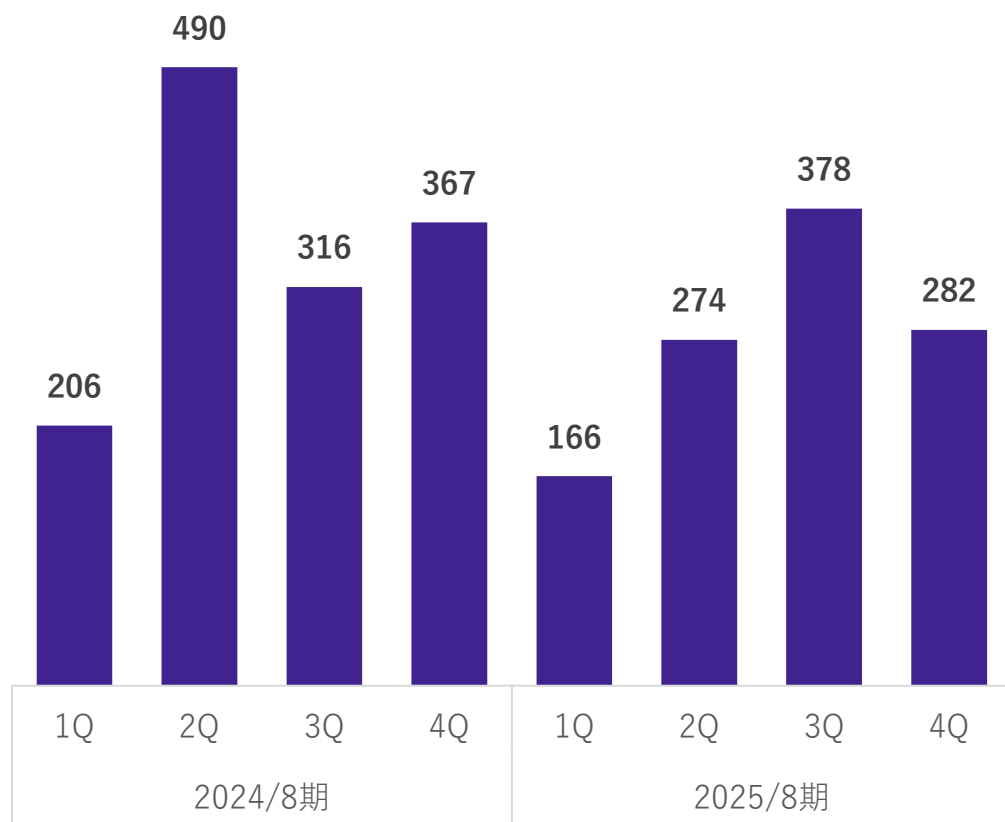
(単位:百万円)



GPUサーバー事業においては、足元でAI開発用途向けGPUサーバーの販売が本格化し、2025年8月単月で105百万円の粗利を計上したものの、税制改正の影響に伴うGPUマイニングマシンの販売減により、4Qは経常損失41百万円を計上。その結果、通期では経常利益は△0百万円、EBITDAは144百万円で着地。2026年8月期は、マイニングマシンの販売減を上回るAI開発用途向けGPUサーバーの販売増による損益改善を見込む

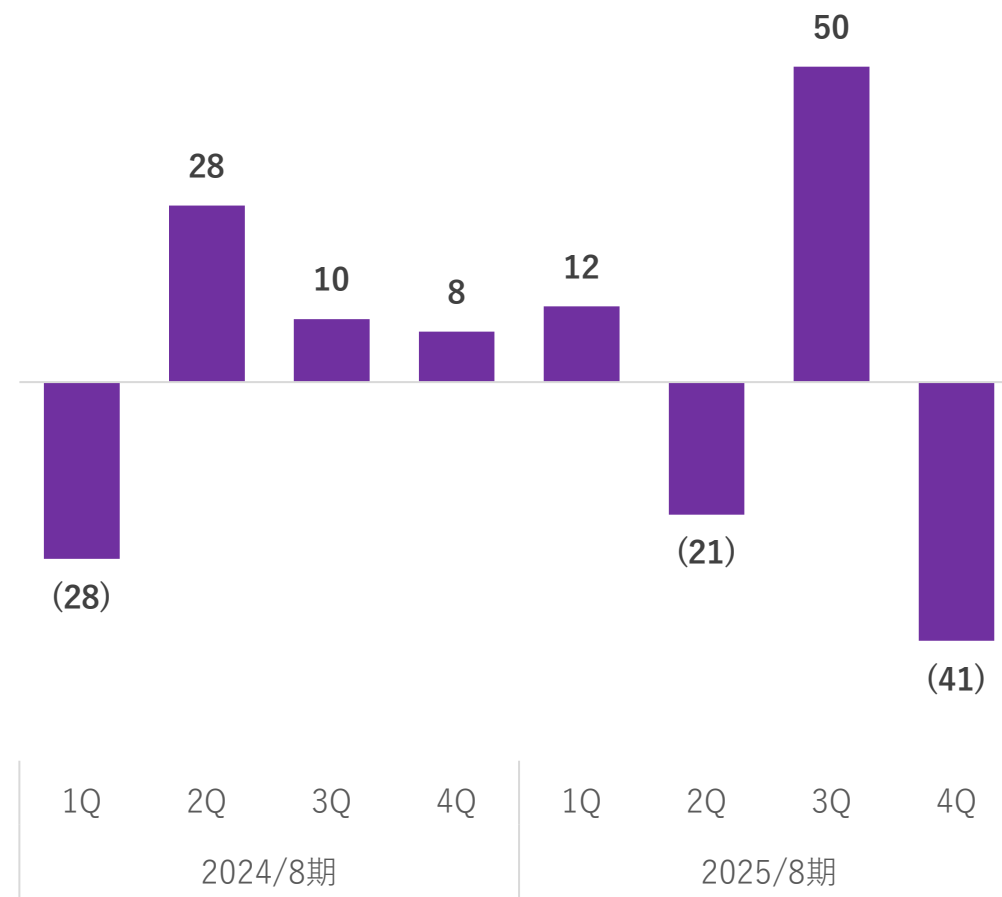
売上高

(単位:百万円)



経常利益

(単位:百万円)



AIソリューション事業

AI
インテグレーション

- 商流改善や単価上昇による社員1人当たり月平均売上の増加(前期4Q1,262K→当期4Q1,478K)、ビジネスパートナー粗利率(前期4Q平均13.2%→当期4Q平均15.3%)が改善
- 24年9月に資本業務提携したゲームカード・ジョイコホールディングス社からのDX/AI案件開発/保守業務の受注が拡大し、業務提携が順調に進行中
- **生成AI関連の開発需要増に伴い、AI開発契約は引き続き安定的に拡大中。**これに加え、AI開発契約から**AI請負案件に繋がる事例が増加、RAG開発、LLMO開発、行動分析AI**など幅広く対応中
- 26年8月期に向けてAI開発案件、請負案件など新規受注が順調に進捗

AIプロダクト

- **LINE WORKSの1次代理店となり営業活動**を開始し、「アルろく for LINE WORKS」「きんろく for LINE WORKS」の営業活動を強化し新規受注が順調に進捗
- 26年8月期に向けて太陽光発電事業所向けAI監視カメラサービスの新規受注が順調に進捗
- 大手自動車メーカー工場にて、AI顔認証勤怠管理システムを追加設置開始

エンジニアリング

- 高稼働率を維持し、**単価は向上しているものの、5月に臨時賞与32百万円を支給し、また、人数減が当初の想定を上回ったため、3Qは利益水準が低下。4Q以降は案件増により請負工数が増加したため、営業損益は黒字に回復、今後も黒字継続見込み**
- トリプルアイズと共同で、自動車設計業務効率化のためのAIソフト開発のプロジェクトチームを組成、複数の設計効率化ソフトの試作開発が進捗中

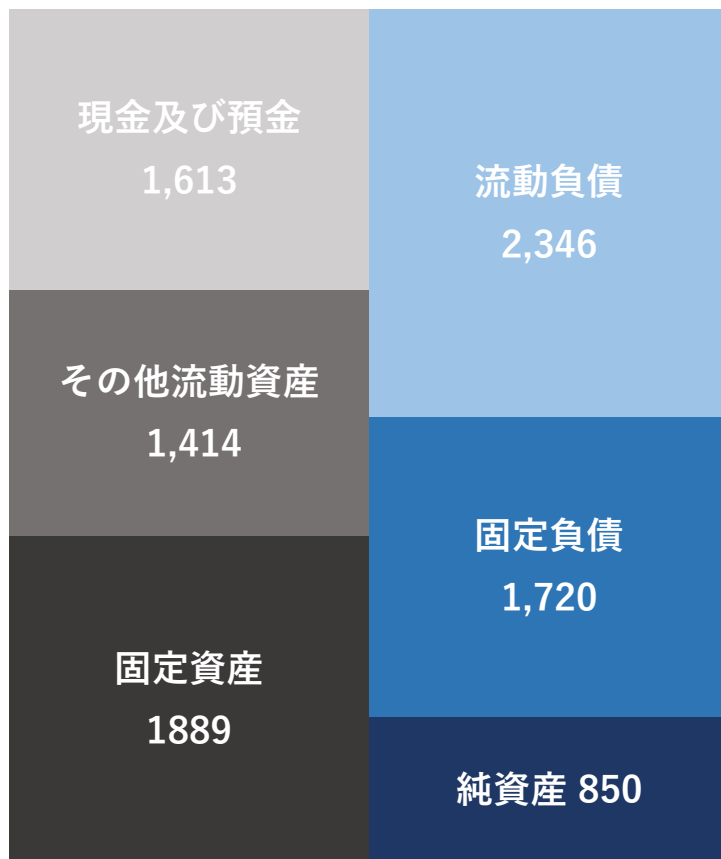
GPUサーバー
事業

- **アーカンソー州に3拠点目となるデータセンターを新設**
- マイニング事業者向けの電力サービスの共同検討を開始
- 暗号資産相場が堅調に推移し、4Q会計に14百万円の営業外収益を計上
- サブスク型ファイナンスサービスの取り扱いを開始し、初期費用を抑えた暗号資産マイニング機器やGPUサーバーの購入が可能に

GPUサーバー事業において棚卸資産評価損286百万円を計上したものの、グループインした株式会社BEXのファウンダー及び資本業務提携を実施した株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスに対して、第三者割当増資を実施したこと等により、前期末と比較して**純資産814百万円増加し、純資産比率は34.4%に上昇したことで、財務体質は大きく改善**

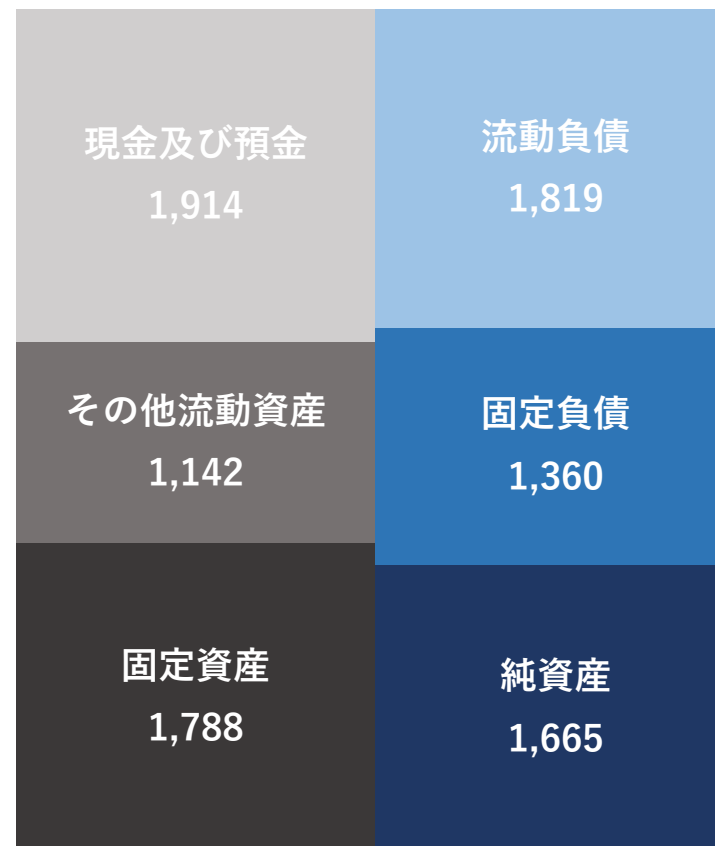
(単位:百万円)

純資産比率：17.3%



24年8月期

純資産比率：34.4%



25年8月期

CONTENTS

2026年 8 月期業績予想

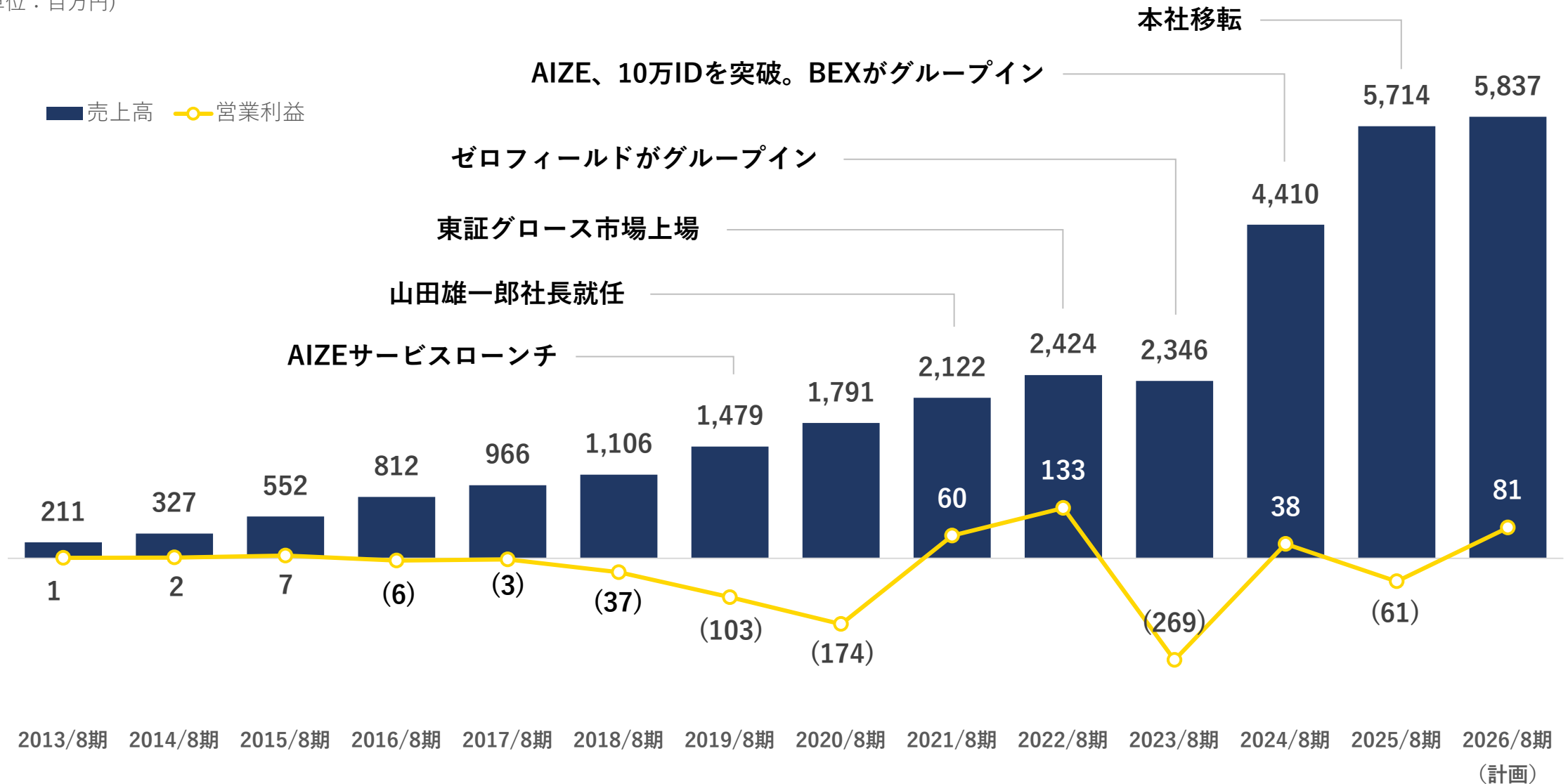
2026年8月期はIFRSを適用。また、GPUサーバーセグメントにおけるAIGPUサーバーの販売強化及びAIソリューションセグメントにおいては次ページ記載の各方針に基づく施策の実行により、営業利益の黒字化を見込む

(単位：百万円)	2024年8月期 通期実績	2025年8月期 通期実績 (A)	2026年8月期 通期業績予想 (B)	増減額 (B-A)	前年比 (B/A)
売上高	4,410	5,714	5,837	123	102.2%
売上総利益	1,474	1,731	1,894	163	109.4%
営業利益・損失(△)	38	△61	81	143	—
経常利益・損失(△)	47	59	—	—	—
当期利益・損失(△)	76	△343	36	380	—

※2026年8月期については、IFRSを適用した数値を記載しております
※IFRSにおいては、経常利益の概念が無いため「—」としています

	AIソリューション			GPUサーバー
	AIインテグレーション	AIプロダクト	エンジニアリング	
損益イメージ	↑	↑	↑	↑
来期方針	- 戦略的部署異動を背景とした契約単価上昇による粗利率の上昇 - AIラボ契約及びプライム案件の受注拡大 - 新卒21人の採用を中心とした採用の拡大	アルろくを中心とした新規契約獲得によるMRRの伸長及びAIZE関連カスタマイズ開発の受注増による拡大 - 開発コストの適切な管理	各種コミュニケーション施策などにより人員減少に歯止めをかけるとともに、請負工数のさらなる増加や採用数の増加を目指し、安定した黒字の継続を目指す	- マイニングマシン販売は鈍化する一方、AI開発用途向けGPUサーバーの販売が拡大する見込み - IFRS適用によるのれん非償却及び顧客関連資産償却の処理変更で114Mの改善

(単位：百万円)



CONTENTS

会社概要

市場環境

競争優位性

成長戦略

経営指標

Appendix

テクノロジーに 想像力を載せる

創業者の故福原智は誓いました。
「ことばにできればすべてシステムにできる」と。
わたしたちは改めてこの誓いを胸に、
希望、夢、挑戦、幸福という想像力を
AIをはじめとした先端テクノロジーに載せて
未来に運びます。

DNAが遺伝子の乗り物であるように、
テクノロジーはわたしたちの想像力の乗り物なのです。



経営危機から新たな成長フェーズへ



何度も当社は危機を乗り越え、成長基調へ

業績向上・株価向上へのコミットをより強化すべく、2024年9月及び2025年3月に、グループ3社の取締役、執行役員、幹部陣に対し有償ストックオプション（以下、有償SO）を発行しています。

	2024年9月割当		2025年3月割当
	第5回有償SO	第6回有償SO	第7回有償SO
付与対象者	社内取締役	社内取締役 社外取締役 執行役員 子会社取締役	社内取締役 社外取締役 執行役員 子会社取締役 従業員
付与株式数合計	168,150株	446,350株	353,400株
権利行使価格	1,405円	1,405円	1,218円
勤務条件	あり	あり	あり
業績条件	なし	25年8月期 連結売上高55億円	25年8月期 連結売上高55億円
強制行使条項	株価が 562円 を下回った場合、権利行使期間末日までに 全株強制行使	株価が 421円 を下回った場合、権利行使期間末日までに 全株強制行使	株価が 365円 を下回った場合、権利行使期間末日までに 全株強制行使
権利行使期間	2024年9月18日 ～ 2029年9月17日	2025年10月15日 ～ 2029年9月17日	2025年10月15日 ～ 2030年3月25日
発行価格	162円	8円	6円

業績・株価の向上へのコミットを強化

- グループ3社の取締役、執行役員、幹部陣に有償SOを発行
- 株価が権利行使価格を上回ることで、付与対象者にリターンが生じる設計となっているため、業績だけでなく**株価向上へのコミットを強化**することが期待

強制行使条項

- 株価が一定の価格を下回ると、付与対象者は、**権利行使価格で全株取得する義務**が発生
- これにより、**株価下落を招く企業活動を抑制**し、**株価下落リスクを投資家の皆様とともに共有**する

会 社 名	株式会社トリプルアイズ (英名：TRIPLEIZE CO.,LTD.)
設 立	2008年9月3日
所 在 地	東京都港区芝浦3丁目4-1 グランパークタワー 32F
役 職 員 数	単体：251名 (2025年8月31日現在) / 連結：465名 (2025年8月31日現在)
市 場 区 分	東証グロース市場 (証券コード:5026)
代 表	山田 雄一郎
事 業 内 容	システムインテグレーションおよびAIプラットフォームの提供
関 係 会 社	株式会社所司一門将棋センター、株式会社シンプルプラン、 株式会社ゼロフィールド、株式会社BEX
特 許	情報処理装置、情報処理方法、及びプログラム (出願番号：特願2020-067799) 複数拠点における時間的整合性を根拠とする本人認証AIシステム
資 格	ISO 9001 JQA-QMA15648 (品質)、ISO/IEC 27001 JQA-IM1456 (情報セキュリティ) ISO/IEC 27017 JQA-IC0003 (クラウドサービスセキュリティ)



当社は、①AIプラットフォーム展開、②レガシー産業へのAI実装、③GPUサーバー事業の推進という3つの戦略に、同規模以上のM&Aの実施、資本業務提携、第三者割当増資なども組み合わせ、AIの社会実装を目指します。

事業セグメント及び事業の特徴

AIソリューション事業

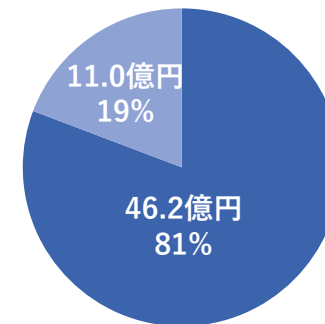
AIインテグレーション(AI/システム開発)、AIプロダクト(自社サービス)とエンジニアリング(自動車設計)の3つのサブセグメントから構成。国産でのオーダーメイド独自AIモデル開発、トヨタグループからも信頼される自動車設計力が強み。

GPUサーバー事業

暗号資産マイニング用途およびAI開発用途GPUサーバーの販売、データセンターの販売・保守運用。ソフトウェア開発力、保守運用までを一貫して担う技術力に加え、高効率なデータセンター構築が強みで、収益性の高い事業構造。

セグメント別売上構成比

GPUサーバ事業



AIソリューション事業

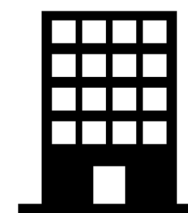
(2025/8期実績)

業 績

	2024年8月期 (実績)	2025年8月期 (実績)	2026年8月期 (予想)
売上高	44.1億円	57.1億円	58.3億円
営業利益	38百万円	61百万円	81百万円

組 織

当社グループ



全 5 社

役職員



465人

深層学習（ディープラーニング）発明 ... 2006

2008

ISLVRで深層学習手法を駆使するトロント大圧勝 ... 2012

Google社、機械学習による猫の画像認識に成功 2014

DeepMind社の囲碁AI「alphaGo」、プロ棋士に勝利 ... 2016

人知を超える神の一手が打たれた！



出典
<https://www.asahi.com/articles/ASK4B5SJ4K4BUCLV00Y.html>

OpenAI社のGPT-3.5発表 ... 2022

Evolution of AI

ジェフリー・ヒントン氏、ノーベル物理学賞受賞
デミス・ハサビス氏、ノーベル化学賞受賞 ...

2017

2019

2020

2021

2023

2024

- ... 9月 東京都千代田区に株式会社トリプルアイズを設立
- ... 8月 社内に囲碁AIプロジェクトチーム発足
- ... 4月 国内初、「ブロックチェーン推進協会」設立を支援
- ... 7月 AI(DeepLearning)基盤となる「Deepize」をリリース
- 8月 測量作業向けドローン制御アプリをApp Storeにてリリース
- ... 9月 産業用モーターとITを融合したIoTサービスを開始
- ... 3月 AIによる画像認識プラットフォーム「AIZE」(アイズ)を発表
「AI 囲碁世界一奪取宣言」を発表
将棋採用（商標登録）スタート
- 4月 囲碁 AI 世界大会「博思杯2019」にて4位を獲得
- 7月 囲碁 AI 大会「2019 年 CGF オープン」にて1位、2位独占
- 12月 「第11回 UEC 杯コンピュータ囲碁大会」にてGLOBIS-AQZが準優勝
- ... 3月 AIZE による顔認証決済サービス「ヤマダ Pay」がスタート
- ... 3月 創業者・福原智 急逝 山田雄一郎社長就任
- ... 5月 東京証券取引所グロース市場上場
- ... 9月 株式会社ゼロフィールドがグループイン
- ... 4月 画像認識プラットフォーム・AIZE、10万IDを突破
- 7月 株式会社BEXがグループイン
- 11月 本社移転

トリプルアイズ取締役



代表取締役 山田 雄一郎

早稲田大学商学部卒業。2005年12月EY新日本監査法人入社。2011年3月監査国際部より異動し、成長戦略室等にて官民連携の経営改革・経営統合に係るコンサルティングを9年間実施（うち2012年から2017年は新日本パブリックアフェアーズ株式会社に outward）、多数のプロジェクトマネージャーを歴任。2020年11月、株式会社トリプルアイズ取締役就任。2021年3月、同社代表取締役就任（現任）。



取締役 桐原 永叔

青山学院大学文学部史学科卒業。幻冬舎メディアコンサルティング編集局長を経て真人堂株式会社設立、代表取締役就任。2010年、株式会社ソフィアホールディングス取締役就任。2010年『IT批評』創刊。NTTデータ研究所の開発プロジェクトレポート編纂に参加。IT関連ビジネス書籍を多数編集。2019年12月、株式会社トリプルアイズ取締役就任（現任）



取締役 CFO 加藤 慶

明治大学法学部卒業。ベンチャー・リンクを経て、EY新日本有限責任監査法人のIPO専門部隊に所属、在籍時に三井不動産株式会社ベンチャー共創事業部に出向しCVCファンド組成に携わる。2018年以降、上場準備会社におけるCFO、取締役を歴任。2019年、株式会社すららネット取締役（監査等委員）就任（現任）。2020年、株式会社ライナフ監査役就任（現任）。2021年9月、株式会社トリプルアイズ取締役就任。2023年10月当社グループ会社株式会社ゼロフィールド取締役就任（現任）。2024年7月当社グループ会社株式会社BEX取締役就任（現任）



社外取締役 篠田 庸介

株式会社ヘッドウォータース代表取締役。1989年にベンチャー企業の立上げに参画。以降、起業家としての道を進み、1999年にE-Learning事業を柱とするIT企業を設立。2005年に株式会社ヘッドウォータースを設立し、代表取締役社長に就任。エンジニアを中心に据えたユニークな組織運営や、黎明期のAI・ロボティクス領域への進出などで注目を浴びる。AIの社会実装、Society5.0実現を目指し、ヘッドウォータースグループを牽引する。

グループ役員



ゼロフィールド代表取締役CEO 平嶋 遥介

上智大学理工学部情報理工科、上智大学院理工学研究科卒業後、NTT データに入社し銀行向け勘定系共同センターへの機能追加・開発などを担当。2017年に株式会社ゼロフィールドを創業し、暗号資産関係のビジネスを展開。金融系システムやブロックチェーン関連の深い知識と豊富な経験を有しており、CTOとして開発チームを牽引しながらも、経営者として成長の道を歩む。2023年8月より代表取締役CEOに就任。

技術顧問



松原 仁

京都橘大学工学部情報工学科教授。はこだて未来大学特任教授。京都橘ロボカップ日本委員会会長、観光情報学会長、人工知能学会長などを歴任。1959年、東京生まれ。86年、東京大学大学院情報工学博士課程修了。同年、通産省工業技術院電子技術総合研究所（電総研、現在の産業技術総合研究所）入所。元、東京大学次世代知能科学研究センター（AIセンター）教授。

技術系執行役員

技術本部 執行役員 徳内 哲也

旧郵政省貯金局の資金運用システムの開発に10年以上にわたって従事するなど、IT業界でシステムエンジニア筋で活躍。個人事業主を経て、株式会社トリプルアイズ入社。2021年9月、執行役員就任。画像認識プラットフォーム・AIZEの開発部門を総括する技術職のリーダー。

技術本部 執行役員 畔柳 卓文

株式会社システムハウス、アイエヌジーなどでシステムエンジニアとして活躍。2016年、株式会社トリプルアイズ入社。2020年11月より執行役員。大手SIerによる大型開発案件に従事し、DXエンジニアのチームを牽引している。

技術本部 執行役員 片渕 博哉

画像認識プラットフォーム・AIZEのメインエンジニア。AIの研究開発から学習アーキテクトの構築をメインに、多種多様の企業案件やAIを使用した音楽配信レコメンドサービスの開発に従事。囲碁AIソフト開発マネージャや他社への講演活動も積極的に行っている。

技術本部 執行役員 日野 隆教

日立機電工業株式会社（現 株式会社日立製作所）でソフトウェアの研究開発に携わる。2001年、株式会社ジャストシステム入社。ソリューション開発部長、企画担当部長を歴任。ナレッジ商品開発、新商品企画を推進。2020年よりインテグレート株式会社でシステム開発部長を歴任。2022年8月、株式会社トリプルアイズ入社、執行役員就任。

技術本部 執行役員 辰本 貴通

人材・情報通信サービス事業等を手掛けるエス・エム・エスでWebエンジニアとして保守運用・新規開発を経験。エンターテインメントサイト等を手掛けるDMM.comの電子書籍事業でエンジニアリングマネージャーを務める。九州全域に展開するふくおかフィナンシャルグループのシニアマネージャーを務めた後、SmartHRのグループ企業にCTOとして就任。2025年6月2日、トリプルアイズに執行役員としてジョイン。

上級執行役員

井口 邦

近畿大学通信教育部卒業後、米コネチカット州Mitchell Collegeに留学。1996年7月ベスト産業株式会社（現B E X）入社、2002年10月株式会社B E X代表取締役就任。同社入社以来、営業、人事、財務等、経営全般に従事する。ベストテック株式会社代表取締役社長も兼任。

技術専門役員

松崎 憲介

技術本部 AIZE開発部所属。入社以前よりトリプルアイズと囲碁AIの共同開発に取り組む。AIにおけるグローバルな先端研究分野の論文をサーベイし、AIエンジンの機能向上を担っている。近年では、マスク装着時の認証精度の向上、AI顔認証が苦手とする若年層の認証精度の向上をリーディングする。画像認識、顔認証にとどまらずAI研究の多くの領域に精通するエキスパートである。

執行役員

営業本部 執行役員 小林 誠

外食産業店長を経て、医療系ホームページ制作・人材紹介会社を設立。2012年IT会社にて営業職を経験、2017年、株式会社トリプルアイズに営業として入社。

営業本部 執行役員 藤澤 由士

2003年株式会社ベンチャー・リンク入社。2009年株式会社アネックスライフ取締役営業本部長を経て、2015年株式会社シンプルプラン立ち上げに参画。2019年9月、株式会社トリプルアイズ入社。

管理本部 執行役員 近藤 一寛

神戸大学経済学部卒業。大手電機機器メーカーにおいて、10年以上にわたり財務経理、IR/SR業務に従事。複数の上場準備企業のマネージャーを経て、2022年4月、株式会社トリプルアイズ入社。

Marubeni



NEX NIPPON
EXPRESS

LINE WORKS



Sony Biz Networks Corporation

brother
at your side

セグメント

サブセグメント

概要

AIソリューション
事業

AIインテグレーション

AIプロダクト

エンジニアリング

AI/システム開発

AI/システムの開発、AIに関するコンサルティング、業種別パッケージの導入等

AI搭載の自社サービス

顔認証AIや画像認識AIを搭載した自社サービス提供による月額利用料及びサービス提供に伴って生じるデバイスやカスタマイズ開発の売上等

自動車設計

主に自動車メーカー向けの設計開発業務の役務提供

GPUサーバー
事業

プロダクト

GPUサーバー
データセンター

保守管理

独自開発したソフトウェアを搭載GPUマシン、モジュール型のデータセンターであるDINO、AI開発向けGPUサーバーの販売によるフロー売上

上述のGPUマシン、モジュール型のデータセンターであるDINOの販売に伴って生じるマシン保守管理、データセンターの保守管理によるストック売上

セグメント

サブセグメント
(事業会社)

AIソリューション
事業

AIインテグレーション
(株式会社トリプルアイズ)

AIプロダクト
(株式会社トリプルアイズ)

エンジニアリング
(株式会社BEX)

GPUサーバー
事業

プロダクト
(株式会社
ゼロフィールド)

GPUサーバー
データセンター

保守管理

AI/システム開発・コンサルティング役務提供

月額/案件単位での対価受領

自社AIサービスの提供

AIサービスの月額利用料受領
自社AIサービス導入時のハードウェア(物販)
/ソフトウェア追加開発(役務提供)

納品/案件単位での対価受領

自動車部品/ソフトウェアの設計開発役務提供

月額/案件単位での対価受領

GPU/ASICハードウェア(物販)
データセンターの計算力貸し出し

納品/案件単位での対価受領

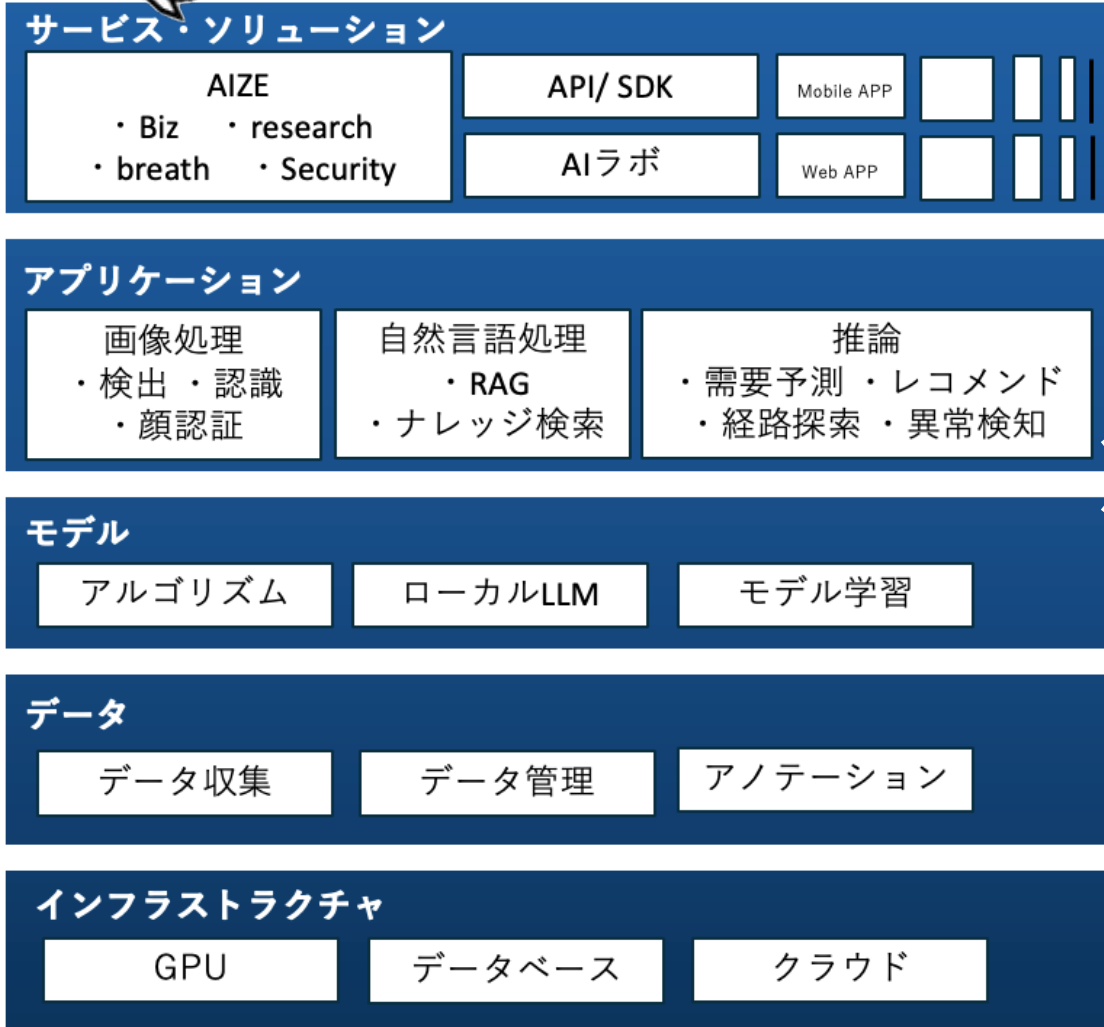
ハードウェア保守サービス(役務提供)

保守サービスの月額利用料受領

顧客



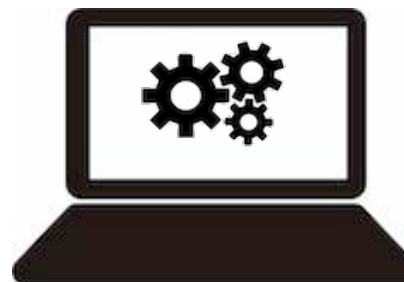
AI プラットフォーム



AI実装を加速する基盤

トリプルアイズグループがもつ、先端テクノロジーの3つの力ですべての”現場”をトランスフォーメーションしていきます。

エンジニア



現場で培われた開発力、
設計力、実装力

GPUサーバ



計算資源であるGPUサーバを
データセンターとして保有

CONTENTS

会社概要

市場環境

競争優位性

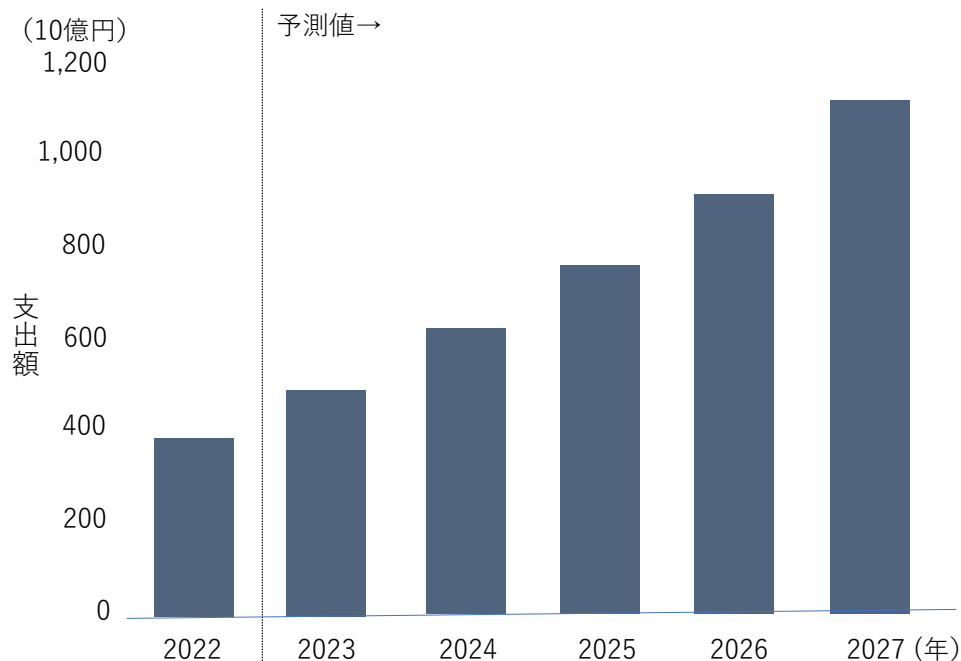
成長戦略

経営指標

Appendix

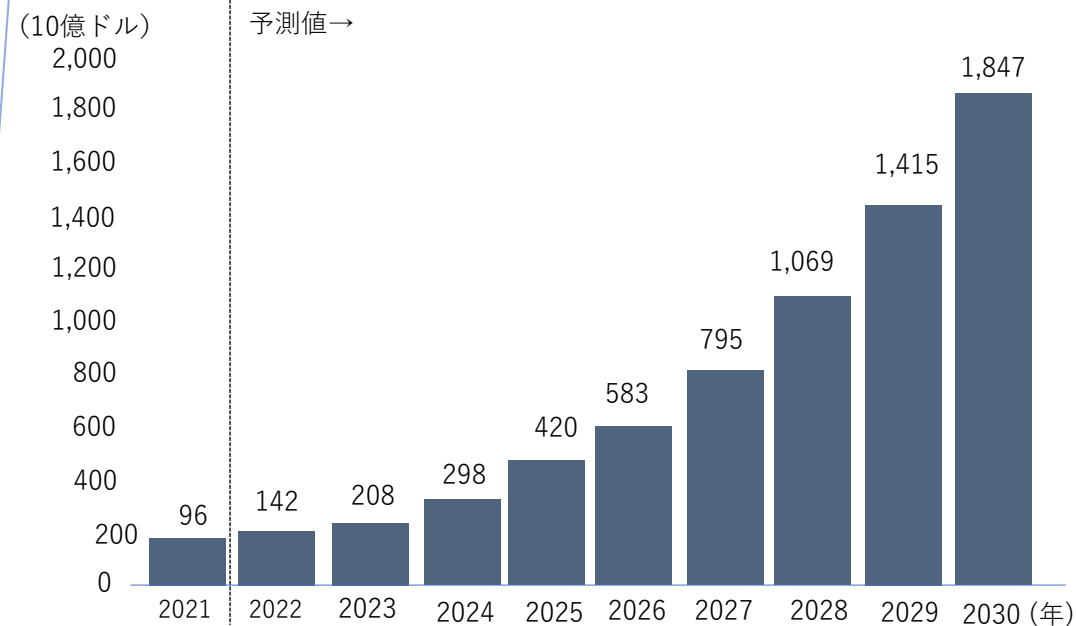
各種調査によると、世界のAI市場は生成AIのニーズに牽引されて2030年まで加速度的な伸びが見込まれています。国内AI市場も、2022年には前年比35.5%増の約3,884億円に達しており、2027年までには約1.1兆円へと拡大すると予測されており、継続的な成長が期待されると、総務省は「令和5年 情報通信に関する現状報告の概要」でAI市場規模の現状を分析しています。

国内AIシステムの市場規模（支出額）及び予測



出典：Statista（Next Move Strategy Consulting）

世界のAI市場規模（売上高）の推移及び予測



出典：IDC「2023年 国内AIシステム市場予測を発表」（2023年4月27日）

インフラ問題の顕在化

生成AIとデータセンターで電力需要が急増し、送電や系統連系の保留が前面化。**データセンターの金融商品化**（REIT）など資金調達の巧拙が鍵となりつつある。

米中AI政策の再編

米トランプ政権下で、対中AI半導体輸出管理の発動が遅れつつも「複雑で重い規制」から「**より賢明で戦略的な仕組み**」へ見直しの流れが示されている

フィジカルAI

NVIDIAはGR00TとNewtonを公開し、シミュレーションから現実への技術移転を加速。**フィジカルAI**は産業・サービスで実装段階に入り、エコシステムの拡大が進展。

政権交代とAI政策

高市政権では、AI推進と経済安全を両立しつつ、**国産半導体・データ基盤強化、生成AI活用拡大**と安全対策がさらに加速する可能性が高い。

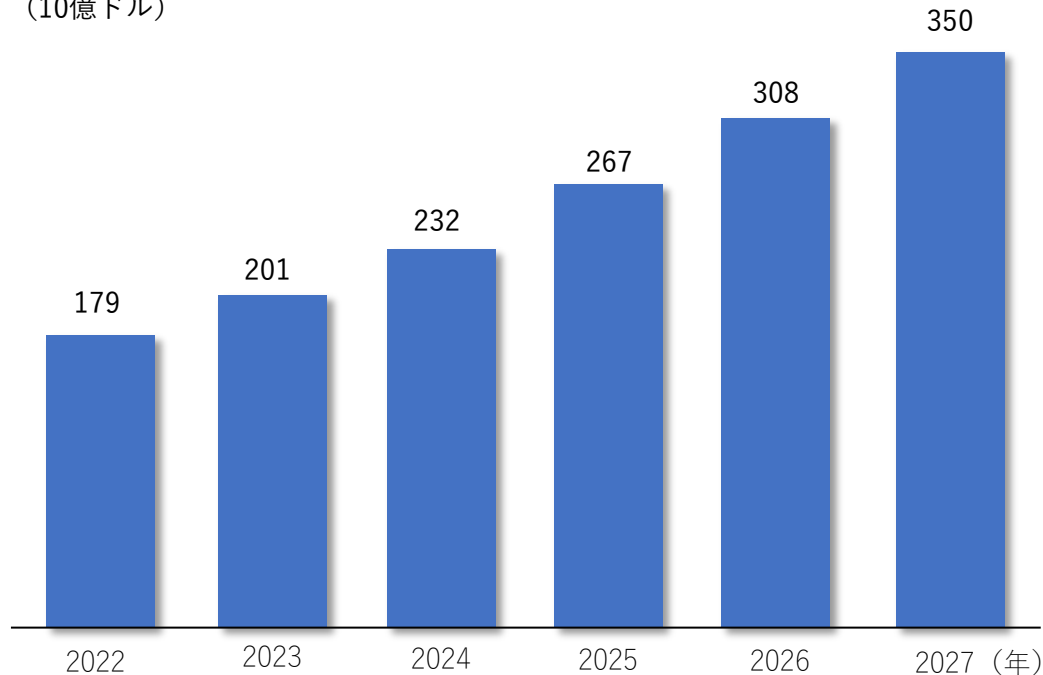


出展： <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC02CLX0S5A001C2000000/>

「フィジカルAI」はエッジ搭載へ拡張し、現場機器に即応する高速度の適応を実現、製造DXを前進させます。ロボットや工作機械に推論を直接実装し、即時制御とライン単位の個別最適を実現します。フィジカルAIの推進はエッジコンピューティング市場をさらに拡大する大きな可能性を秘めています。

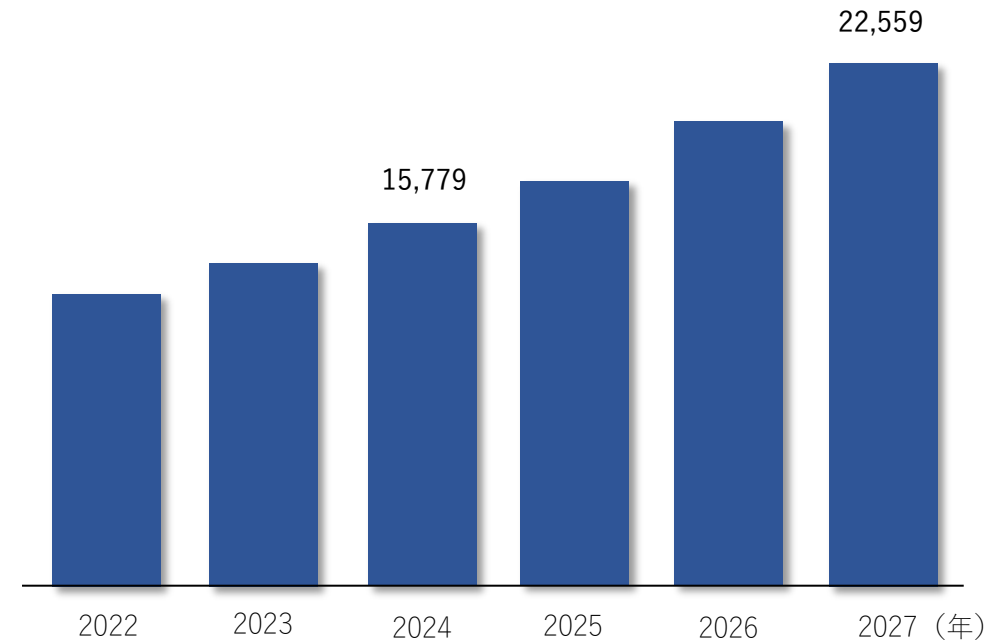
世界のエッジコンピューティング市場規模（支出額）の推移及び予測

(10億ドル)



国内のエッジコンピューティング市場規模（支出額）の推移及び予測

(億円)



CONTENTS

会社概要

市場環境

競争優位性

成長戦略

経営指標

Appendix

日本をのぞく世界の先端IT企業のほとんどが囲碁AIの研究開発に挑んでいます。囲碁AI 開発プロジェクトへの参画は、私たちのディープラーニングの大きな成果であり、AIエンジンの優秀性の証明となります。囲碁AIを通じたAIの研究は2014年から約10年に亘ります。



囲碁AIがもたらしたイノベーションは、AI史を塗り替え、世界を変えました。その原点には、私たちの挑戦しつづけてきた技術があります。囲碁AI開発まさにはAI開発の王道です。王道を歩んできた私たちが、未来の扉をさらにおしあけます。

AIの未来を創ってきた、私たちのDNA

囲碁の局面変化 10^{360}

将棋の局面変化 10^{220}

全宇宙の粒子数 10^{80}

地球の海岸の砂粒数 10^{23}

日本総人口 10^8

囲碁の盤面は 19×19 の361マス。指し手の選択数は10の360乗と天文学的に複雑。技術力の差が勝敗に現れます。

囲碁AI世界大会成績推移

開催時期	順位
2019年4月	4位
2019年12月	2位 ^{*1}
2022年3月	6位 ^{*2}
2023年11月	1位 ^{*3}
2024年7月	1位 ^{*3}

*1：共同開発プロジェクト「GLOBIS-AQZ」での成績

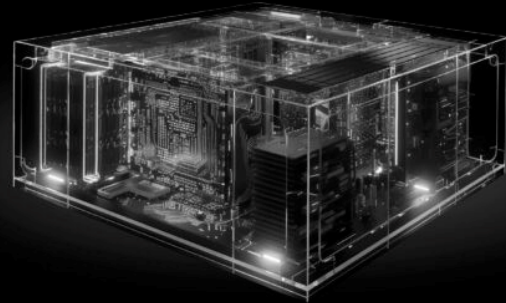
*2：2020～2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会参加を見送ってまいりました。

*3：当社エンジニアの個人参加による成績です。

グループ会社であるゼロフィールドは、生成AI開発向けに特化した「GPU Server for AI」の提供を開始しました。AI用途に最適化されたサーバーを、豊富なGPU運用実績とデータセンター運営ノウハウを活かし、柔軟に設計・構築。オンプレミス需要やセキュリティ課題にも対応し、業務効率化や新規ビジネス創出を支援します。国内No.1のGPUマシン運用実績を背景に、AI開発の加速と多様なニーズに応える体制を強化しています。

最先端技術の活用を自分の手で

GPU Server for AI
GPU サーバーコンサルティング



AIソリューション検証から導入まで
GPUサーバーの運用を総合的にサポート

POWERED by ZEROFIELD

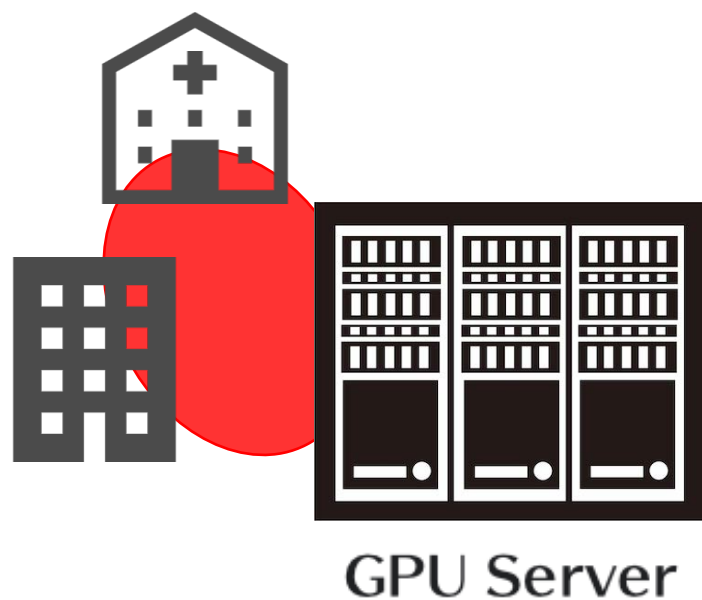
より柔軟な生成AI活用を実現

オンプレミスでは企業が自らの施設でサーバーを保有・管理し、データ保護やセキュリティを強化します。ハイブリッドサーバはオンプレミスのリソースとクラウドを組み合わせ、セキュリティと制御の利点に加え、クラウドの柔軟性とスケーラビリティを実現します。トリプルアイズ・グループは、ソフトウェアとハードウェアを手がけており、ユーザーニーズの高いこうしたシステムを提供できます。

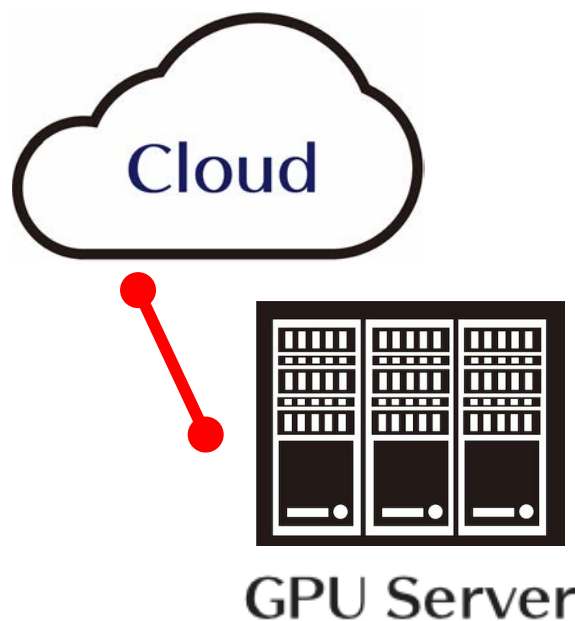
オンプレミス 【基幹系】

ハイブリッドクラウド

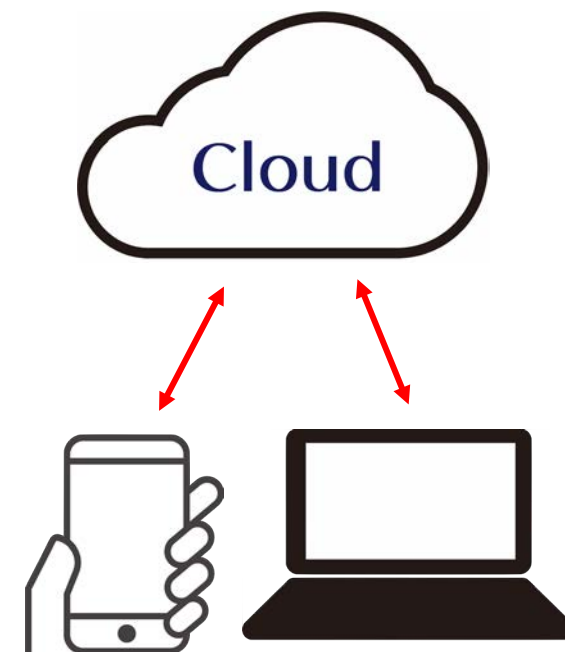
クラウド 【情報系】



顔認証AIで使用するデータをオンプレミスで処理するにはGPUサーバが最適となる
AIZEはSDKで提供する



機密情報を自社内で管理しながら、機動性ある情報処理はクラウドが担う



複数拠点での出退勤管理を一括管理するにはクラウドが最適である
AIZEほか、SaaSの活用

技 術

TECHNOLOGY

1980年の創業より45年。世界的自動車メーカーを設計力で支えるのが強み。同社エンジニアが関わった特許出願は140を超える

1980年創業
45年

特許出願に
関わった発明件数
140件超

CATIAライセンス
44台

人 材

PEOPLE

大手メーカーの自動車設計開発という魅力的な事業内容を背景とした安定した採用と優れた育成環境

安定した採用
優れた育成環境
エンジニア**173**名

システム開発
1994年
スタート

実 績

PERFORMANCE

技術力を信頼され、取引先の70%はトヨタグループから受注しており、同グループなどの設計分野でシェアが高い
*右は独立系設計会社としての順位

空調
トヨタ車体内
シェア **1** 位

ボデーシェル
トヨタ車体内
シェア **2** 位

小型EV
Lean Mobility内
シェア **1** 位

トヨタ自動車 i-ROAD開発にも参画



※写真は「トヨタグローバルニュースルーム」より転載

センターコンソール
小島プレス工業内
シェア **1** 位

シート
トヨタ紡織内
シェア **1** 位

TOYOTA コンセプトカー i-ROAD

私たちの挑戦



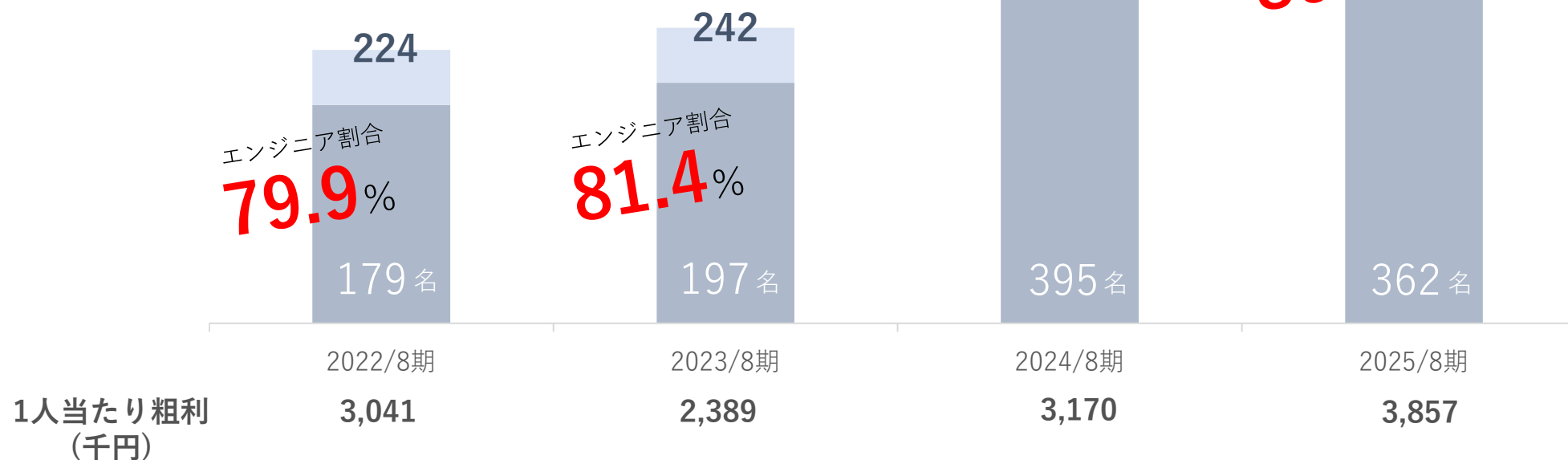
BEXは創業以来、技術力を活かして様々なメーカーのサポートを行ってきました。
その実績の1つを、実際の現場で活躍したスタッフのメッセージを添えてご紹介します。

出典：BEX社コーポレートサイトより

連結従業員数推移(人)

2023年9月
ゼロフィールドグループイン
2024年7月
BEXグループイン

エンジニアリングサブセグメントでの
人員数の減少があったものの、1
人当たり粗利は向上している。また
新卒採用が好調(26卒がグループで
37人予定)で今後は増加する見込み



AIインテグレーション
+
AIプロダクト

193名

AIプロフェッショナル/DXエンジニア

最先端AIの研究開発+顧客のDX支援を強力にサポート。第15回UEC杯コンピュータ囲碁大会(2023年11月)で1位となった囲碁AIの研究開発のネットワークを活用し優秀な人材を採用する他育成にも力を入れる。

世界大会

第1位

囲碁AI研究開発のネットワーク 高度AI人材採用

G検定 合格者 *1

総勢 25名

ディープラーニングへの組織的理解

中級上級エンジニア

155名

アジャイル開発 スピード対応

エンジニアリング

160名

自動車設計エンジニア

大手自動車メーカーの設計開発において40年超の実績があり、特許出願に携わった件数は140件を超える。ハードウェアとソフトウェアの両軸で技術を高める自動車設計のプロフェッショナル集団。

大手自動車メーカーとの取引実績

40年超

確かな信頼の積み重ね

関与特許実績

140件超

関連技術の世界最先端

空調 トヨタ車体内

シート 豊田紡織内

シェア 1位

シェア 1位

GPU

9名

GPUエンジニア

各種高性能パソコンの設置からメンテナンス、運用に至るまでトータルでサポートできるハードウェアエンジニアとソフトウェアエンジニアを揃える。

販売累計台数 3,589台 全国シェア 39%

3年連続全国 1位

購入顧客数 486人 全国シェア 62%

3年連続全国 1位

自社データセンター
稼働顧客数 414人 全国シェア 68%

3年連続全国 1位

*1：一般社団法人日本ディープラーニング協会が主催する検定。
事業に活用できるAIの知識を検定試験する

CONTENTS

会社概要

市場環境

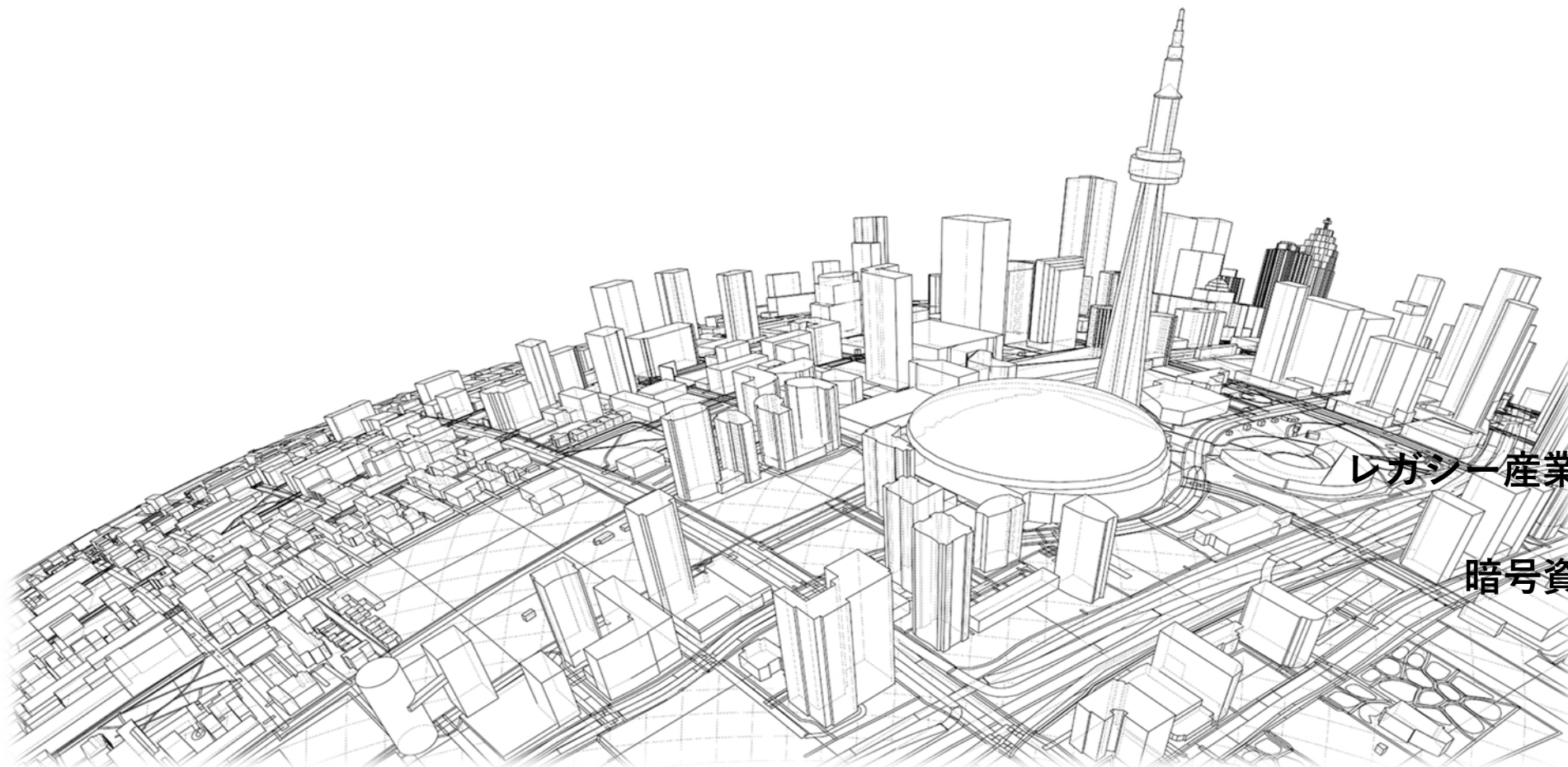
競争優位性

成長戦略

経営指標

Appendix

トリプルアイズグループは、画像認識をはじめとするAI技術、GPU、ブロックチェーン、そして自動車設計という最先端技術の各領域の現場の最前線にいます。エンジニアは新たな市場と未来を切り拓いていきます。



生成AIの爆発的進化

顔認証サービスの実装

レガシー産業への国産エッジAIの提供

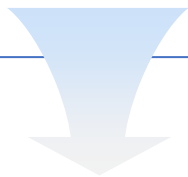
暗号資産トレジャリー事業支援

AI×M&Aの非連続成長

1

AIプラットフォーム展開

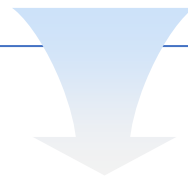
自社プロダクトでのMRR拡大
10万IDの運用実績



2

レガシー産業へのAI実装

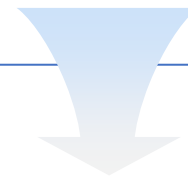
業界に深くリーチする
プレイヤーとのM&Aや資本提携
エッジAIプロダクトによる
AI需要の取り込み



3

GPUサーバー事業の推進

AI開発用途GPUサーバー、
データセンターの展開



さらに非連続成長の動きを進行中

同規模以上のM&A

暗号資産トレジャリー事業支援

AIプラットフォーム展開

- ・世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれた**10万IDの運用実績、自社AIプロダクトとしてはトップクラスの運用実績**（例：大規模自治体初の世田谷区非常勤勤怠管理システム採用から全国展開）
- ・当社AIプラットフォームと開発力を活かし、他社SaaSサービスと連携し、他社勤怠管理システムへバンドル提供、レベニューシェアで拡大（例：LINE WORKS、TeamSpirit、ASPIT等）
- ・**AI自社プロダクトは月額利用料(MRR)が高粗利で長期継続、拡大を目指す**
- ・AI自社プロダクトを全国の多様な業種に展開し、「AIラボ」の提供機会を創出する戦略とし、「AIラボ」を顧客と共同で取り組むことで、SI大型請負案件につなげる

レガシー産業へのAI実装

- ・ AIの導入余地が大きいレガシー産業にアプローチ
- ・ 自動車業界(設計、製造)については、**トヨタグループ各社との顧客網を築く株式会社BEXの知見を活かし、業種特化のAIプロダクト開発を目指す**
- ・ 遊技業界プリペイドカードシステム最大手のゲームカード・ジョイコホールディングス社との資本業務提携も実施し、**遊技業界のAIによるデジタル化を目指す**
- ・ 上記以外でも、**レガシー産業にリーチするリーディングプレイヤーとのM&Aと資本業務提携を皮切りに、当該産業へのAI実装を目指す**
- ・ イノテック社と共同開発した**製造業に強いエッジAIプロダクトによるAI需要の取り込み**

GPUサーバー事業の推進

- ・ 独自開発したソフトウェアを搭載した暗号資産マイニング用途及び**AI開発用途GPUサーバーマシン、モジュール型/コンテナ型のデータセンターの販売**
- ・ 大量電力消費時代における電力発電事業者や土地保有者との余剰電力等の活用推進
- ・ 電力料金の低くクリーンエネルギー活用可能な海外データセンターの拡張

同規模以上のM&Aを実施し、非連続成長を実現

Moreover

AIの周辺領域のM&Aによるソリューションの強化

独自開発のAI基盤が多業種に展開可能で、シナジーを創出

M&A時には創業者も増資で参画し、グループ一体で価値向上を推進

持続的かつ安定的な暗号資産事業を実現する

furthermore

暗号資産エコシステム全体の質的向上に貢献

国内外のマイニング基盤や技術的知見で信頼性の高い事業推進

電力コスト、環境対応、遠隔運用といった課題へのノウハウ提供

AIプラットフォーム展開

トリプルアイズのAIの技術力と知見を活かして構築した独自のAIプラットフォーム基盤をベースに、自社プロダクトの拡大、他社サービス連携、AI案件のフックから大型システム案件受注につなげる戦略を推進していきます。



AIプラットフォーム

サービス・ソリューション

AIZE

- ・ Biz
- ・ research
- ・ breath
- ・ Security

API/ SDK

Mobile APP

AIラボ

Web APP

アプリケーション

画像処理

- ・ 検出
- ・ 認識
- ・ 顔認証

自然言語処理

- ・ RAG
- ・ ナレッジ検索

推論

- ・ 需要予測
- ・ レコメンド
- ・ 経路探索
- ・ 異常検知

モデル

アルゴリズム

ローカルLLM

モデル学習

データ

データ収集

データ管理

アノテーション

インフラストラクチャ

GPU

データベース

クラウド

AIエンジンの世界的実績を持つ自社プロダクト

世界大会有数の実績を誇る囲碁AIの研究開発から生まれ自社プロダクトの提供によって**10万IDの運用実績**をもつAIエンジン

他社サービス連携

API、SDKでの他社SaaSサービスとの連携し、レベニューシェアで拡大、**AI自社プロダクトは月額利用料が高粗利**で長期継続

AIフックから大型化

AIラボサービス（事例頁参照）及びオーダーメイド**AI開発リード顧客からの大型システム開発受注**、基幹システム開発受注

自治体



小売・流通



銀座メガネコンタクト

総合商社



金融



鉄道



物流



電気機器



食品卸



医療・医薬品



情報通信



建設ICT



建設・機械



情報機器・通信機器



当社は、AI自社プロダクトを全国40都道府県に展開し、ゼロフィールド社は福井、熊本、新潟、多摩川にデータセンター拠点を有し、BEX社は豊田市で自動車設計を実施し、東京とグループ各社とその拠点と連携しつつ、全国展開を推進しています。



特別地方公共団体

勤務時間の適切な把握方法と管理
業務の効率化を模索

画像認識プラットフォーム

AIZE

顔認証サービスの提供に加え数多くのシステム
開発に実績を持ち、個人情報保護にも注力

世田谷区

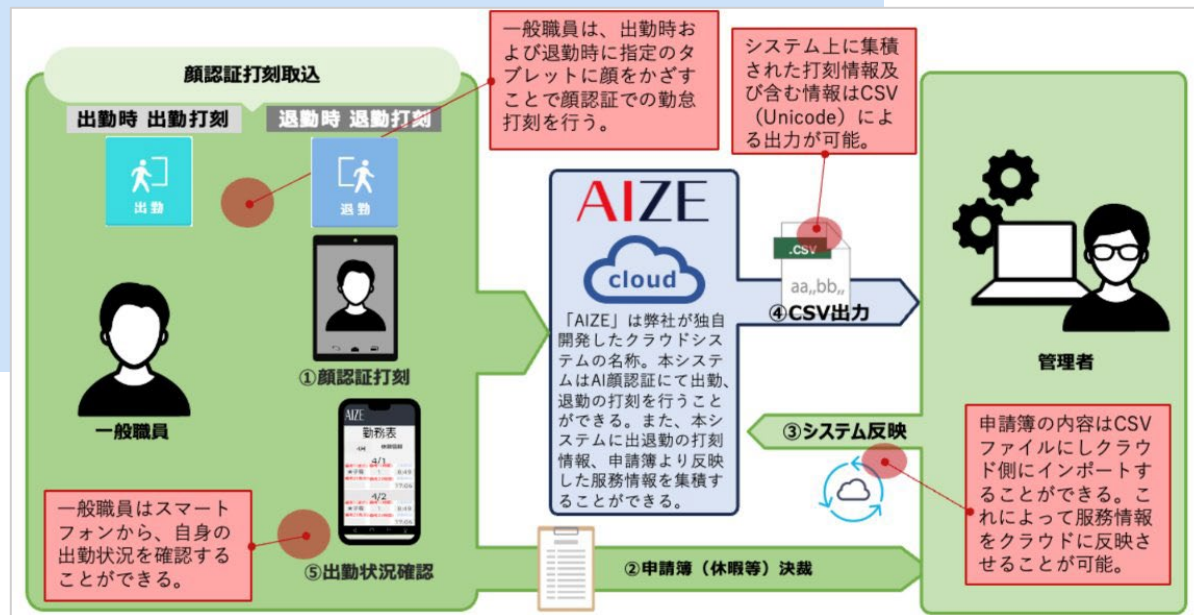
顔認証システムを通じて勤怠管理の効率性向上

世田谷区の世田谷区の会計年度任用職員の出退勤管理

導入拠点：500カ所（本庁舎、保育園、学校、図書館） 対象職員数：約5000～5400人/年間

*延べ任用人数は約6400人を予定

- 顔認証端末にはタブレットを使用
- 長期安定運用とコスト効率を考慮
- クラウド上のAIZEと連携
- 有給休暇を含めた勤怠と休暇情報の可視化UIを構築
- より効率的な勤怠管理を実現

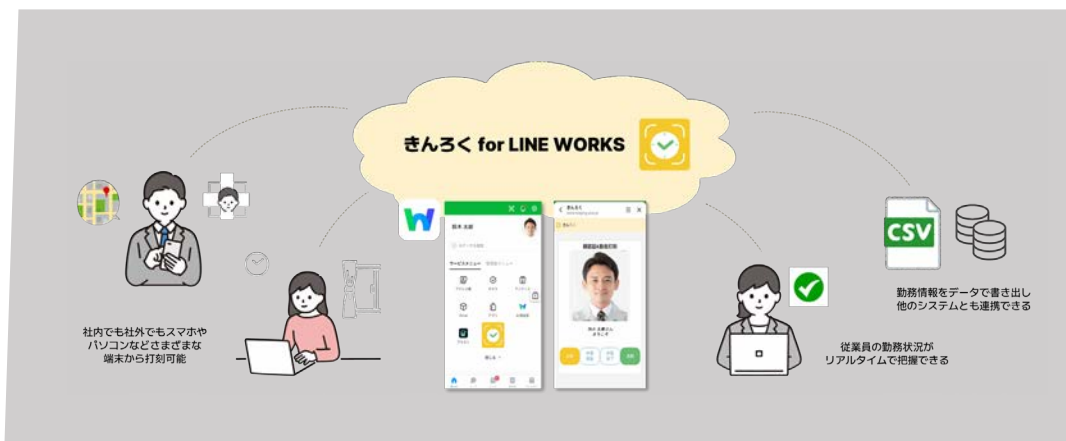
「ジチタイワークス」に
世田谷区の事例が掲載

2025年6月には、AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス「きんろく for LINE WORKS」をリリースし、LINE WORKSの管理画面から即時利用可能となりました。ダイワボウ情報システムおよびSB C&Sを販売パートナーに迎え、普及拡大が期待されます。また、「LINE WORKS Partner Award 2025」を受賞し、両社の関係が一層深まっています。



ダイワボウ情報システム株式会社

2025年6月20日
AI顔認証付きクラウド型勤怠打刻サービス
「きんろく for LINE WORKS」スタート
LINE WORKSの管理画面から即座に利用可能に



「LINE WORKS Partner Award 2025」にて
「The Best Collaboration」を受賞



「アルろく for LINEWORKS」を提供し業務効率化や法令遵守を支援。これらの協業が高く評価されました。

事業の概要

既に多数のユーザーが使用するITシステムとの共同開発で、「画像認識プラットフォームAIZE」のAI機能を搭載いただくことで**既存システムに付加価値を提供し、ユーザー数の増加**によってリカーリングレベニューを拡大させます。

実際の事業展開例および今後の成長可能性

既存ITシステム

LINE WORKS

導入 43万社、450万ユーザー（2024年6月）

AI機能

+ **AIZE Breath**

共同開発サービス

 **アルろく**
for LINE WORKS

【市場規模とターゲット】

義務化対象ドライバー：約**869**万人
LINE WORKSユーザーとの高い親和性
：**50**万社・**500**万人

【アルコール検知器の導入状況】

導入準備開始企業：**58**%
未着手企業：**21**%
潜在顧客の課題：チェックの実施率の低さ

【顔認証AIのニーズ】

スマホで簡単に管理可能なツールを求める潜在顧客数*試算
：869万人 **×** 83%（未導入率と実施率から算出） = **724**万人

【ポテンシャル】

潜在需要：約**83**万ユーザー
年間収益インパクト：約**14**億円

【差別化ポイント】

LINE WORKS内アプリでアルコール検知できるのは当社のみ

画像認識プラットフォーム「AIZE」を多業種に展開し、リード創出を強化。「AIラボ」で顧客と共創し検証を推進、AIシステムの開発、既存システムインテグレーションといった大型案件獲得へつなげ、顧客のLTVを向上させる戦略です。

AI Lab

企業課題&ニーズ



AIの基礎知識を高めたい

AIラボなら…

ジェネラリストからスペシャリストまで対応

課題解決方法を相談したい



AIラボなら…

要件定義から設計まで対応



開発リソースや環境が欲しい

AIラボなら…

環境構築から実証実験・実装まで対応

ビジネス推進チーム

ステークホルダー
DX推進
システム担当者 など



AIラボリーダー



課題に合う
最適なエンジニアリソース



顧客企業

トリプルアイズ AI Lab

「AIラボ」は、DXの最新情報サーベイ、AI論文サーベイ、案件実績が集約されたエンジニアチームを顧客のビジネス、サービスに活用します。

AIZEの新AIエンジン「model_6」をローンチし、照明不足・斜め顔・マスク等の低品質画像でも精度を踏まえて、実際の運用で確実性と採用拡大に向けて直接的な性能改善を実現しました。

精度向上の実の運用インパクト

低照度・斜め顔・マスクなど「低品質」でも認証精度を底上げする「model_6」は、現場での再撮影や手戻りを減らし、離脱や解約を抑制する効果が期待できる。

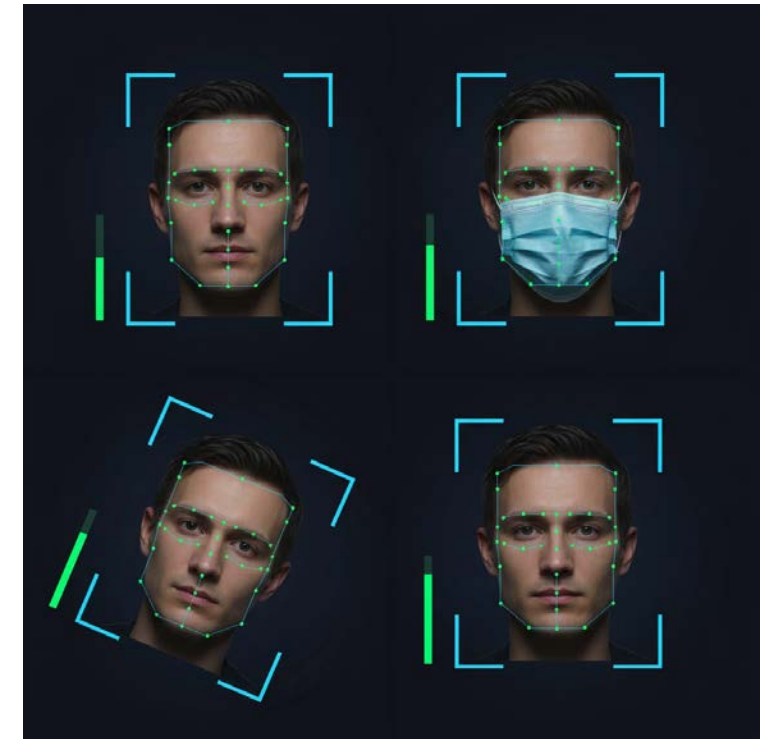
技術アプローチと差別化

「動的マージン調整」「位置ずれ耐性」「ハードサンプル軽減」「クラス間距離最適化」を統合し、正面以外でも安定する汎用性を獲得した点が差別化の核となる。

市場拡大と獲得チャンス

生体認証シフトの追い風下で、API連携や他のカメラ活用といった導入の容易性はスピード導入を必要とするドライバーになります。勤怠や入退室に進み、酒気立ちチェックなど周辺業務の一体化により、クロスセル優先が広がる構造はARPU拡大に資するため、精度進化がそのまま売上レバーに直結します。

AIZE
MODEL 06



2025年秋、千葉大学と共同で中高生向けの実践的AI講座を開催し、生成AIや画像認識の実装体験「人とAIの共生」を目指して次世代リーダー育成を視野に置いたりテラシー強化プログラムを開始しました。



人材育成基盤の共創

中高生が対象の実践型AI講座を千葉大学と共同開催し、生成AI・画像認識などを実装して社会課題解決までを学ぶ構成とした。学校教育の枠を超えた産学連携により、現場の開発知見を若年層へ還元し、地域と産業の双方に対抗する人材育成基盤を築く余地がある。

グローバルなAI人材

AI人材の早期育成は採用・コミュニティ形成・ブランド資産の強化につながり、中長期の人材獲得コスト削減と研究開発の裾野拡大に定着する。大学連携の継続性は自治体・教育機関との協業機会を増やし、助成金や実証フィールド確保など非連続的な開発効率化の外部資源を取り込みやすい。

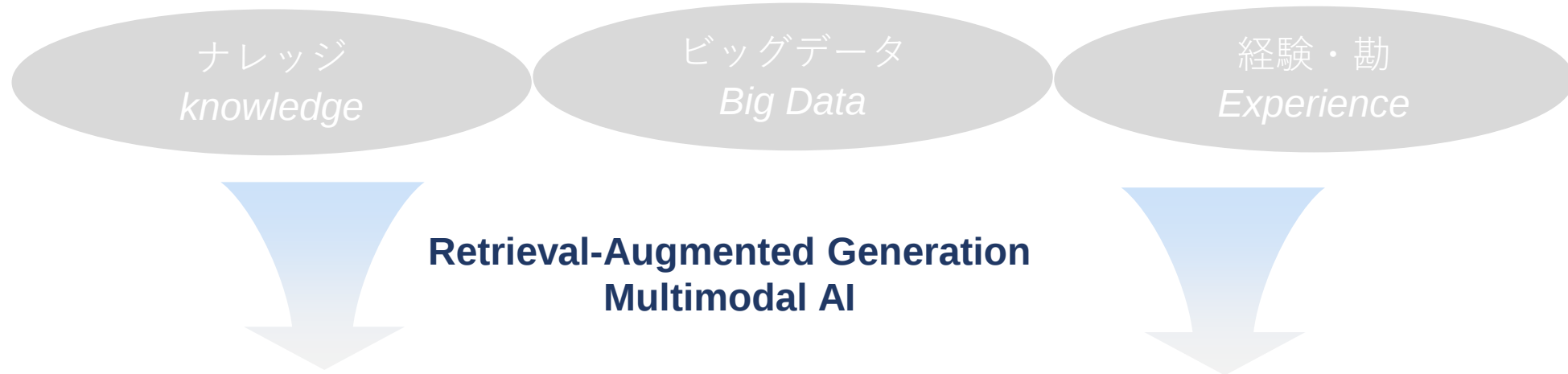
事業シナジー

自社の画像認識プラットフォームや実装ノウハウを教育コンテンツ化することで、将来的なAIZEエコシステムの利用者・開発者層を拡大できる。教育を通じた社会実装事例の創出は、B2B案件への対立や共同研究の起点となり、導入事例と技術資産の両輪で競争優位を補う。

レガシー産業へのAI実装

レガシー産業という課題解決が困難な大規模市場においてサービス提供を開始しています。AIの社会実装を進めるべく、レガシー産業のプレイヤーと組み、共同商品開発、営業連携による事業展開を進めていきます。

レガシー産業へのAI実装戦略



SI（システムインテグレーション） + AI ラボ

自社プロダクト + エッジAI

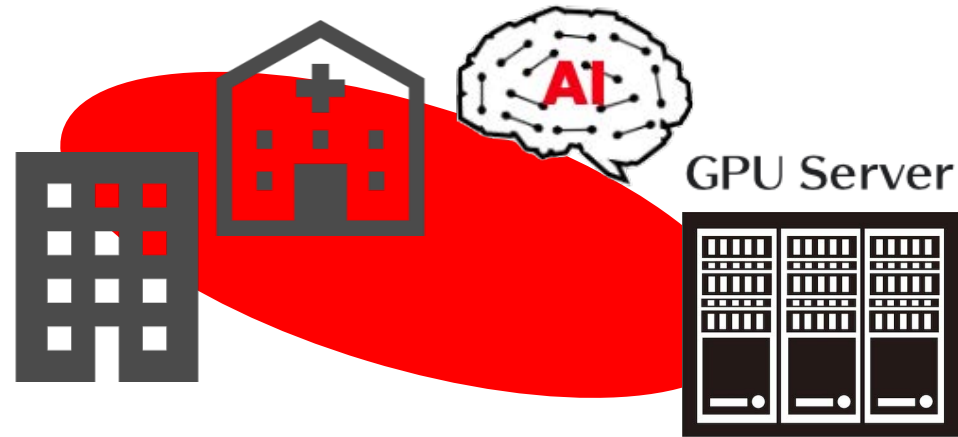
AIの導入余地が大きいレガシー産業にアプローチ

自動車業界(設計、製造)については、株式会社BEXの知見を活用し、業種特化のAIプロダクト開発を目指す

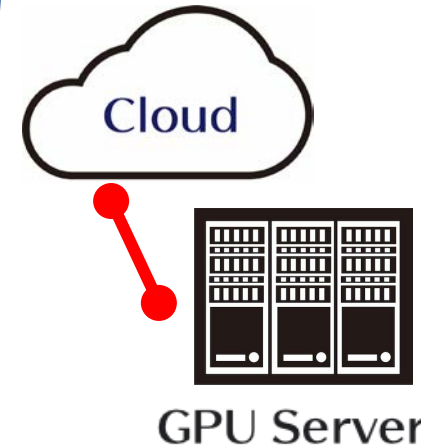
製造業に強いエッジAIは共同開発にてサービス開始

M&Aや資本業務提携を皮切りに、当該産業へのAI実装を目指す

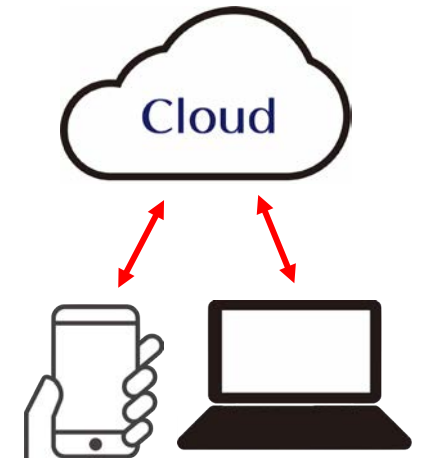
エッジAI【基幹系】



ハイブリッドクラウド



クラウド【情報系】



業務・業種別AI搭載GPUサーバー

生成AIを活用したオンプレミスAIシステムを提供。
特定業種・業務向けに最適化し、データ管理やセキュリティを強化します。

【主な用途例】

- ・ 製品設計支援AI搭載GPUサーバー
- ・ セキュアなデータ管理
- ・ 製造業や設計業務など、業種ごとのニーズに対応

エッジAI事例：AIZE搭載「Edge FACE」

国産AIとハードを組み合わせたエッジ顔認証は、高セキュリティ・即時認証・ネットワーク非依存が特長。工場やオフィスの入退管理、装置操作認証、無人受付など、機密性やリアルタイム性が求められる現場で活用されています。



BEXのグループインを契機に自動車設計業務分野におけるAI社会実装を共同で進めております。人間による作業やチェックが多い自動車設計業務において、自動化・効率化のためのAIソフトウェアを共同で開発し、これを自動車設計業界内に展開していきます。また、遊技場向けプリペイドカードシステムのリーディングカンパニーであるゲームカード・ジョイコホールディングスとの資本業務提携を通じて、AIを用いた業界のデジタル化を目指します。

AIによる業務**支援**

業務フローの標準化
ルーチンタスクの自動化
プロジェクト管理のサポート
データの解析/市場分析

AIによる業務**代替**

ナレッジデータ学習による専門タスクのAI化
要件定義の自動生成
マーケティングレポートの自動生成

AIによる業務**拡張**

新製品・新サービスの企画立案
新製品・新サービスの開発支援
生産工程のDX化（AIと熟練者の協働）

<例:ゲームカード・ジョイコ社とのプロジェクトスケジュール[2024年9月]

[2026年3月]

[~2027年8月]

Phase 1

システムリプレイス
・リファクタリング

レガシー技術/プログラムの刷新

開発プロセス標準化

システム試験業務の改善

インフラ、基幹システム更改

Phase 2

AIを用いた
遊技業界のDX

AI活用領域

顧客動向や売上など、各種データ分析

デジタル端末による新しい顧客体験の提供

イベント・プロモーション戦略

GPUサーバー事業の推進

AI向けGPUサーバーの需要が高まる中、ゼロフィールドは「GPU Server for AI」としてAIを活用する事業者向けに、最適なサーバーソリューションを展開しています。自社データセンター運営の経験を生かし、カスタマイズや運用サポートを強化。生成AIや大規模言語モデル、3Dシミュレーションなどの用途に応じたインフラ環境の提案が可能です。高性能なGPUと柔軟なサーバー運用で、AI開発の加速に貢献します。

AIのインフラとなるGPUサーバー



事業者向け生成AI用GPUサーバー
【NVIDIA H200を最大8GPU搭載可能 Supermicro社製】



AI開発者向けワークステーション
【最大4GPU搭載可能 デスクトップからラックマウントまで】

AIシステムやAI開発のパートナーとして

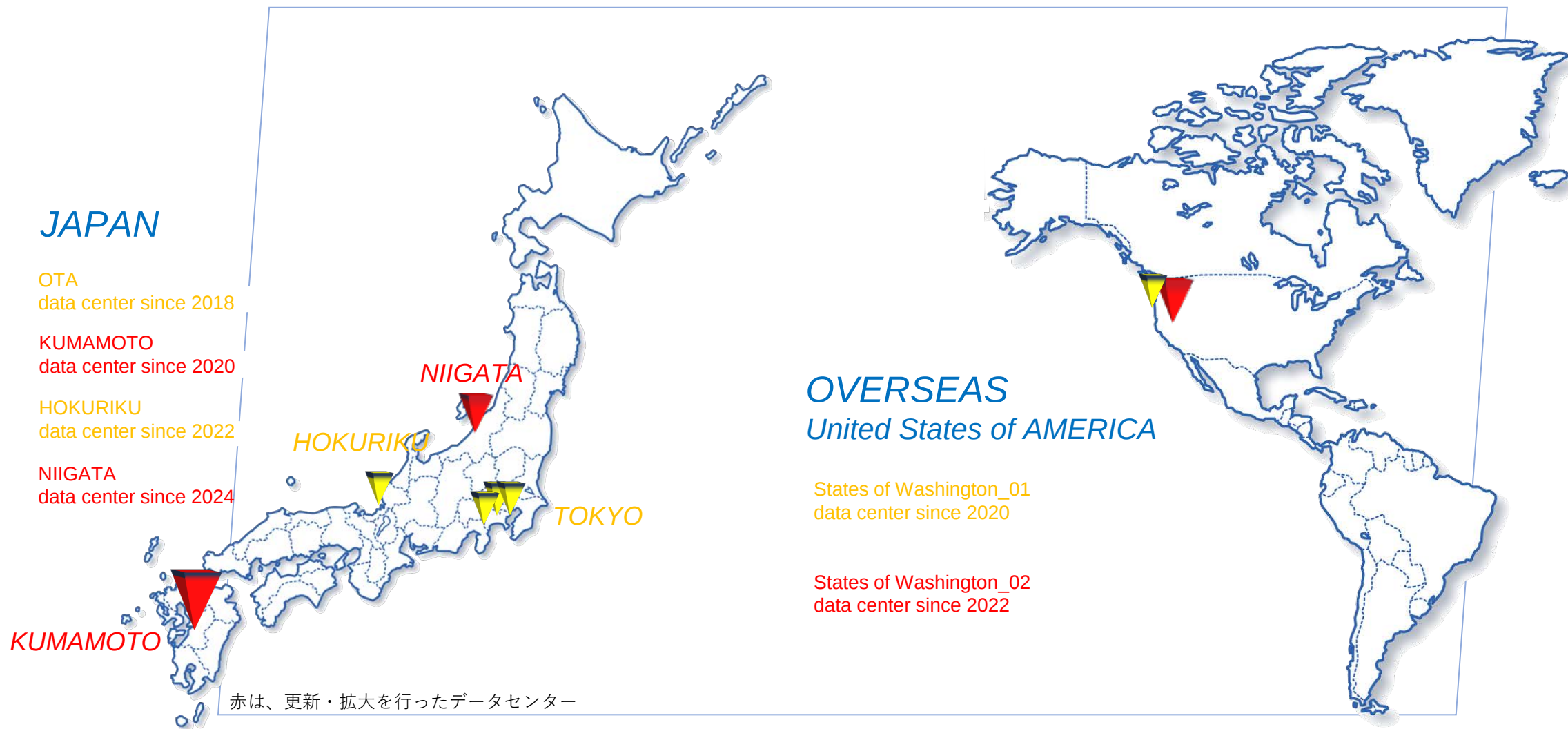


GPUサーバーの導入を広げるべく、AI活用の推進とAI開発事業者との提携を進めています。一般社団法人生成AI活用普及協会(GUGA)にシニアパートナーとして加入しました。AIサービス事業者や、AI開発事業者やAI導入支援事業者との連携を進め、AIインフラの提供を広げます。

生成AIの利用拡大に伴いニーズが増えているエッジデータセンターとして、当社開発のコンテナ型データセンターとともにGPUサーバーの提案も行う。AI開発からGPUサーバーの運用、データセンターの構築までトータルサポートが特徴。



今後の売上拡大を視野に国内外のデータセンターにおいて追加の設備投資や設置上限台数の引き上げを行っていきます。2024年5月には新潟県に新データセンターを開設しました。今後の販売計画に合わせ、国内外で追加のデータセンターの開設やデータセンター事業者との業務提携、データセンター拡張による設置可能台数の拡大など、複数の対応を行っていきます。



2018年から国内外で合計6拠点のデータセンターを展開するゼロフィールドでは、2022年に開設した独自開発のモジュール型データセンターに加え、2024年にはコンテナ型データセンター『DINO Rex』を開発。DINO Rexは、顧客ニーズに合わせてカスタマイズすることができるため、国内No.1を獲得している暗号資産マイニングでの活用はもちろんのこと、生成AI用にエッジデータセンターとして活用することもできます。短期間に設置できるため、安価な電力の新たな活用方法として販売を広げています。

コンテナ型データセンターによる 余剰電力活用の提案

コンテナ型データセンターとは、エッジでのサーバー稼働に最適化された設備を備えた可搬型の省スペース施設です。



コンテナ型、モジュール型 データセンターの独自開発



コンテナ型データセンター
【ニーズに合わせてフレキシブル
にカスタマイズ可能】



モジュール型データセンター
【福井大学との共同開発の排気システム搭載】

M&Aによる非連続成長の実現

大型M&Aの実施

- ・ 同規模以上の大型M&Aの実施
- ・ ターゲットはEBITDA倍率4倍～5倍前後

AIソリューション事業を基盤としたシナジー

- ・ エンジニアが活躍する楽しいと思える領域、AI周辺事業領域のM&A
- ・ 独自開発AIの共有によるシナジー創出

自由度の高い資本政策

- ・ グループインした役員を中心に有償SOを付与するなどインセンティブを過去実施

当社グループへの資本参画によるベクトル合わせ

- ・ M&Aと同時にファウンダーに当社グループの第三者割当増資を実施、当社グループ価値向上を当社とともに目指す

大型M&Aと
IFRS導入

- ・ゼロフィールドは25年8月期売上高11億円、のれん(顧客関連資産含む)償却前経常利益約1.2億円と通期でのれん償却1.1億円を上回る。暗号資産、AIGPUサーバーという新分野を開拓
- ・BEXののれんの総額は2.5億円(PPA認識後年間償却費約19百万円)であり、また、人員減が想定以上に推移し、当期3Q以降は利益水準が低下するものの、通期では売上17億円、のれん(顧客関連資産含む)償却前経常利益105百万円で着地し、グループ業績に寄与。**4Q以降は案件増により請負工数が増加したため、営業損益は黒字に回復、今後も黒字継続見込み**
- ・DX推進、連結経理、グループ通算制度など業務及び税務効率化についても推進
- ・**のれん償却負担軽減及び積極的なM&A推進のため、26年8月期1QよりIFRS導入予定**

エクイティ調達、
財務体質の改善

BEXファウンダーからのエクイティ調達、24年10月に完了したゲームカード・ジョイコホールディングスへの第三者割当増資実施等により、**純資産額は16億円以上に増加し、大きく財務体質を改善**

M&A、
資本業務提携による
AI社会実装の加速

- ・**ゲームカード・ジョイコホールディングスとの取引は、資本業務提携前より開始し、順調に増加。**今後は遊技業界のAIを用いたデジタル化など当社AI技術を利用した独自のプロダクト開発に共同開発中
- ・**BEXと着手している自動車設計の業務効率化AIの共同開発においては、複数の設計効率化ソフトを試作開発中**
- ・ゼロフィールドとトリプルアイズがオフィスを同居し、エンジニア交流が一層進む形としAI×GPUの研究開発を推進。**ゼロフィールドは暗号資産など最先端分野の開拓**
- ・これらの活動が当社のAI社会実装を加速させる

国内の動向

暗号資産の「20%分離課税」導入議論：日本では暗号資産の利益は雑所得として総合課税（最大55%）の対象だが、株式やFXのように「20%分離課税」へ移行する議論が進行中。この分離課税が実現すれば、個人投資家の税負担が大幅に軽減され、暗号資産市場の活性化や健全な投資環境の整備につながると期待される

暗号通貨の大きな意義

AI × 暗号資産のシナジー：生成AI時代、AI技術と暗号資産の融合でグローバルな価値交換が拡大。データセンターの余剰リソースをマイニング等に活用し、効率的な運用を実現

分散型ネットワーク構築：トークン活用で分散型AIインフラの構築や新たな経済圏が創出されうる

暗号資産トレジャリー事業

暗号資産トレジャリー事業は、企業が自社の余剰資金や資本を活用しビットコインなどの**暗号資産を戦略的に取得・保有、財務資産や経営資源として運用する事業**。三菱商事やローソンが運営する「Ponta」が、ポイントと連携した暗号資産取引サービスを2025年内に開始予定で企業の新たな資産運用手法として注目されている



<https://toyokeizai.net/articles/-/886943>
<https://forbesjapan.com/articles/detail/80012>

高性能PCとワンストップソリューションを提供するゼロフィールドは、技術力が評価されマイニング業界で4年連続3冠を達成。豊富なマイニング実績、独自の運用技術、電力コスト最適化、パートナー企業への包括支援体制を強みとし、暗号資産トレジャリー事業において信頼性と成長性を両立しています。

5つの支援内容

①マイニング拠点の選定・構築支援

企業のニーズや電力特性を踏まえ、最適なマイニング拠点の選定から設計・構築まで一貫してサポート

②機器選定・導入・運用支援

最新のマイニング機器の選定から導入、稼働後の運用まで、専門ノウハウによるトータル支援を提供

③電力コスト最適化とESG対応を含む持続可能性設計

電力コスト削減とともに、環境・社会・ガバナンス（ESG）に配慮した持続可能な運用体制を構築

④暗号資産市場の動向や技術トレンドの情報提供

市場や技術の最新動向をタイムリーに提供し、企業の意思決定をサポート

⑤NFTやブロックチェーン活用に向けた技術支援

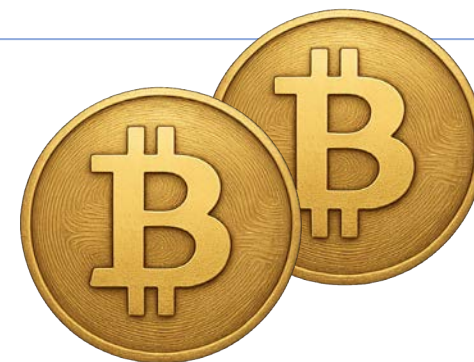
今後のNFTやブロックチェーン事業展開を見据えた技術的なアドバイスや導入支援も実施



ゼロフィールド社は、暗号資産マイニング分野で独自の強みを持つ企業です。高い収益性と手間のかからない運用を両立し、初心者から経験者まで幅広い投資家選ばれています。2年間の運用管理費無料や自動スイッチングシステム、専任スタッフによるサポートなど、安心してマイニング投資を始められる環境を提供しています。

暗号資産マイニング事業の実績

- 国内外6拠点のマイニングファーム構築実績を持ち、幅広い運用ノウハウを蓄積
- 東京本社から国内外データセンターを一括管理し、高い稼働率と安定した運用を実現
- 累計導入台数・運用台数は業界トップクラスで、多数の顧客に選ばれている
- 2年間の運用管理費（電気代含む）無料サービスなど、コスト競争力のあるプランを提供
- 独自の自動スイッチングシステムにより、常に最適な通貨で高収益を目指す運用が可能
- スマホアプリによるリアルタイム管理で、初心者から経験者まで手軽に運用状況を把握できる
- 専任スタッフによるサポート体制が整っており、導入から運用まで一貫して安心
- 短期償却など投資メリットも豊富で、法人・個人問わず導入実績多数



技術力でマイニング業界を牽引

国内マイニング事業3部門 4年連続全国No.1を獲得



■ゼロフィールド ■A社 ■B社 ■C社 ■D社 東京商工リサーチ調べ 調査実施期間：2024年11月～2025年3月

CONTENTS

会社概要

市場環境

競争優位性

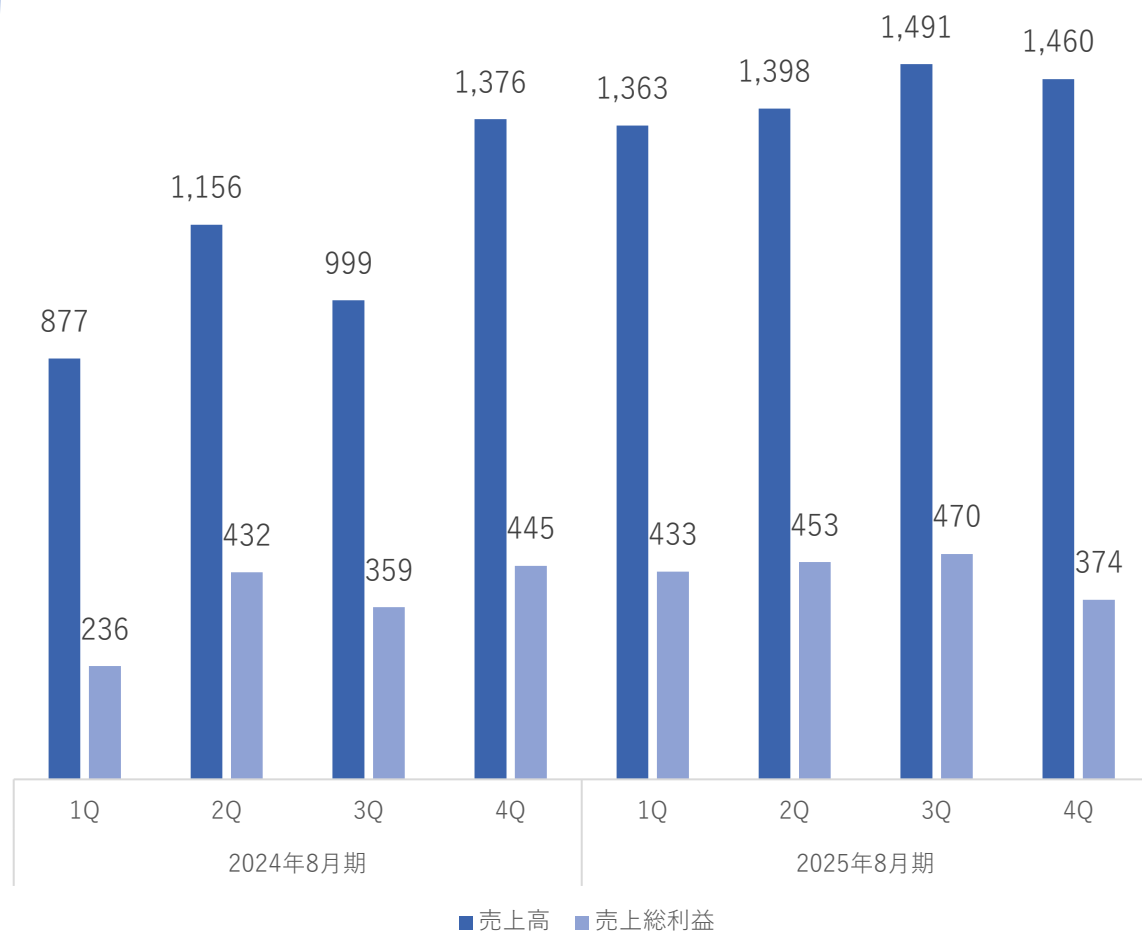
成長戦略

経営指標

Appendix

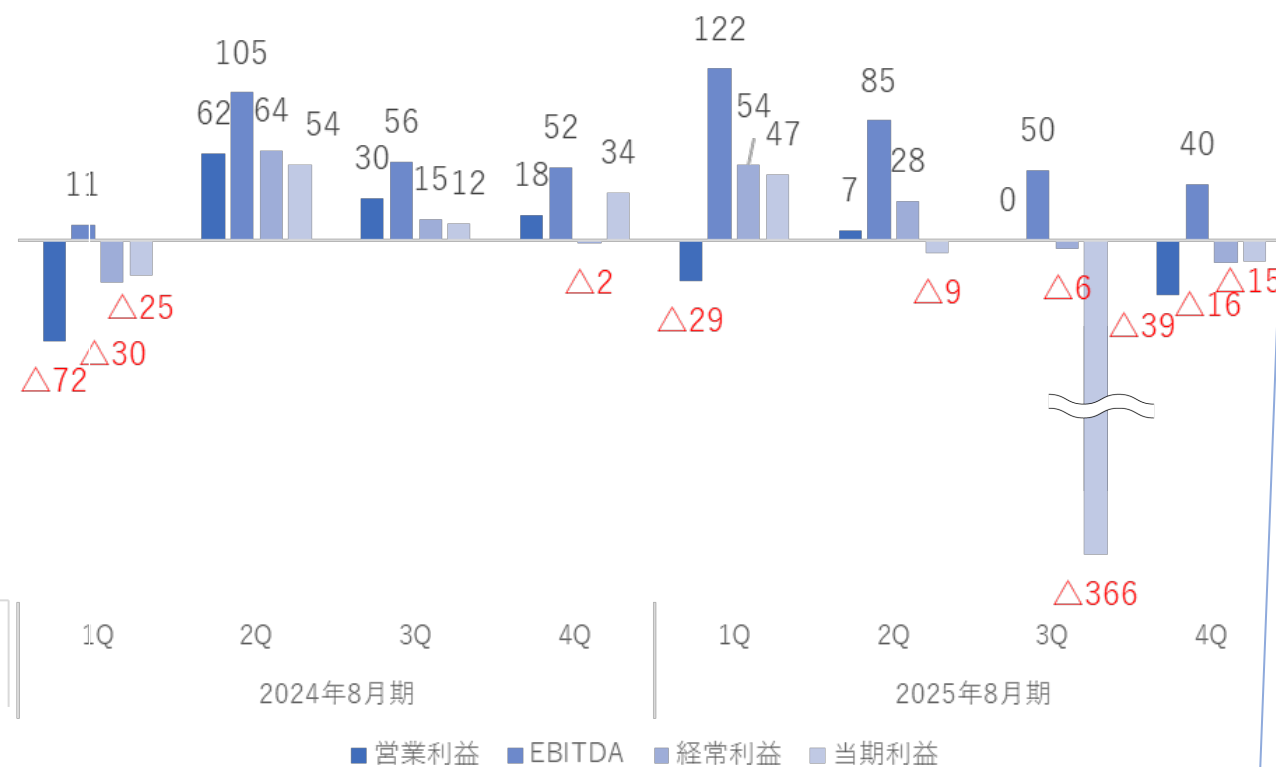
連結売上高/売上総利益推移

(単位：百万円)



連結営業利益/EBITDA/経常利益/当期利益推移

(単位：百万円)



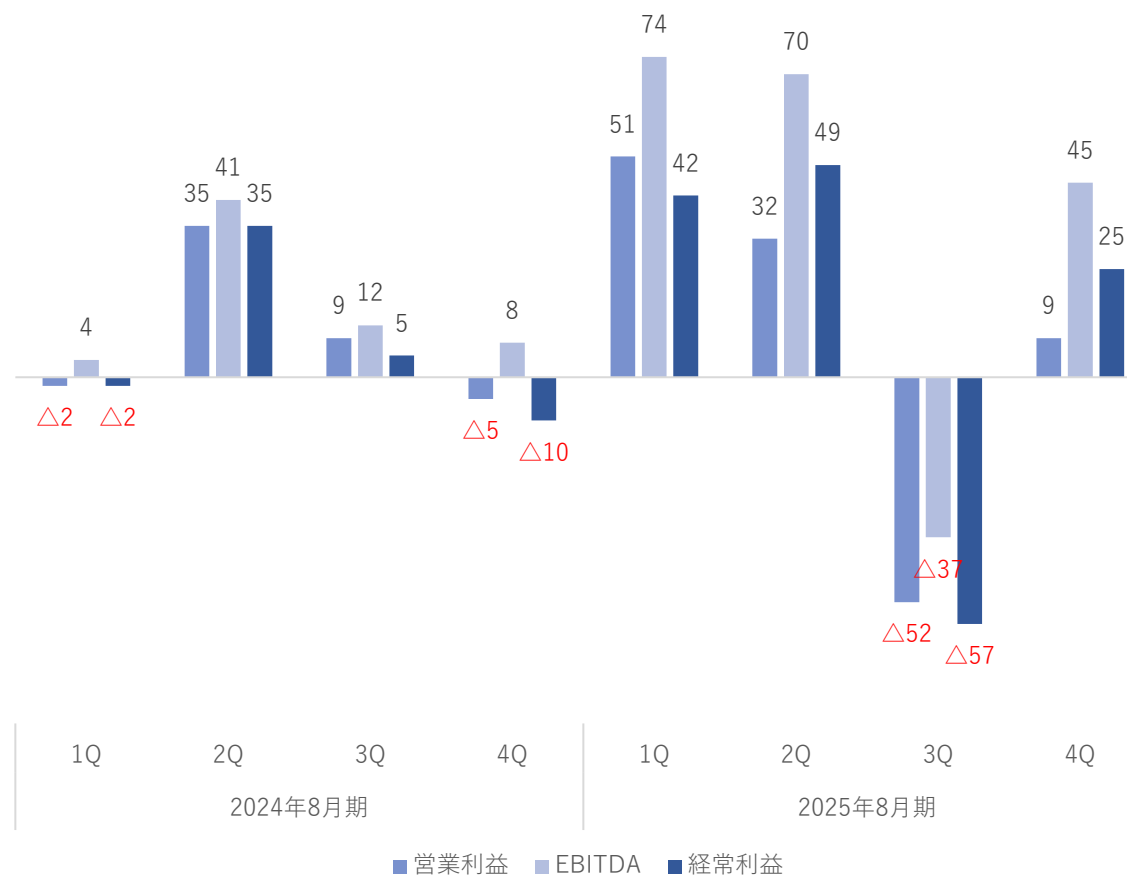
AIソリューション 売上高/売上総利益推移

(単位：百万円)



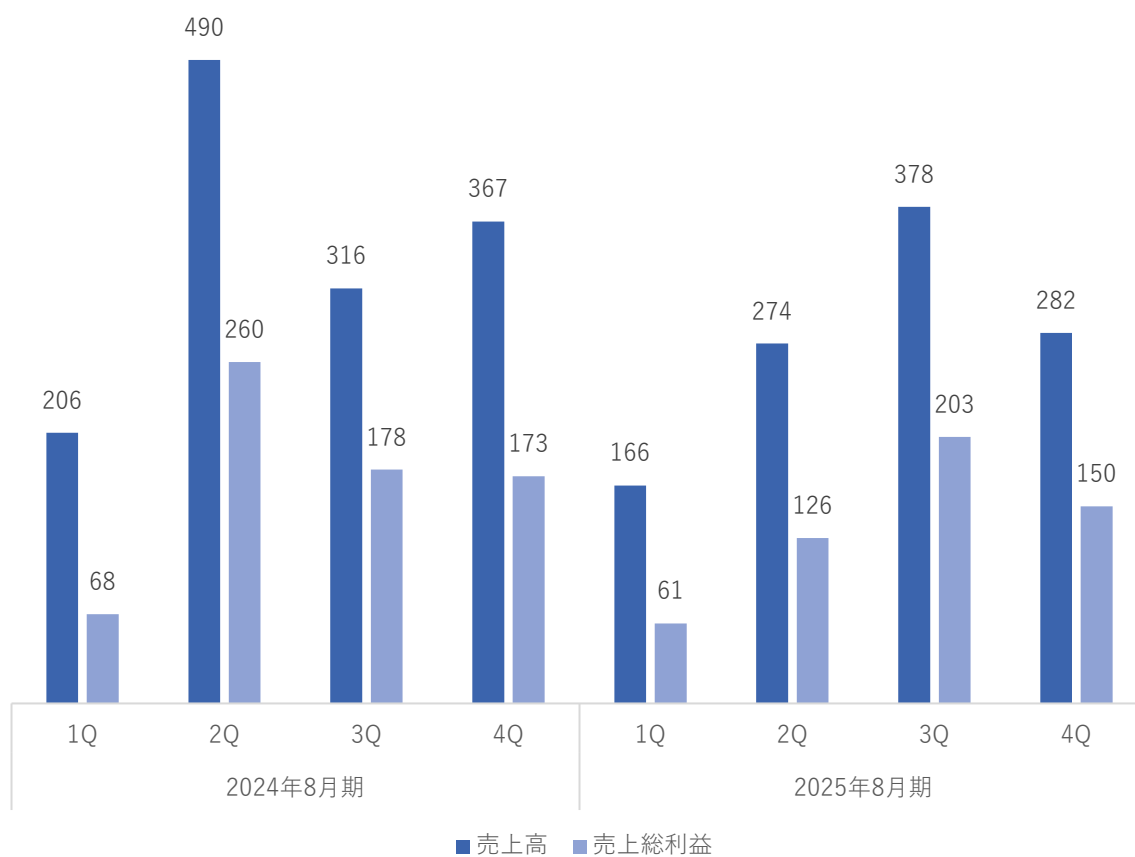
AIソリューション 営業利益/EBITDA/経常利益推移

(単位：百万円)



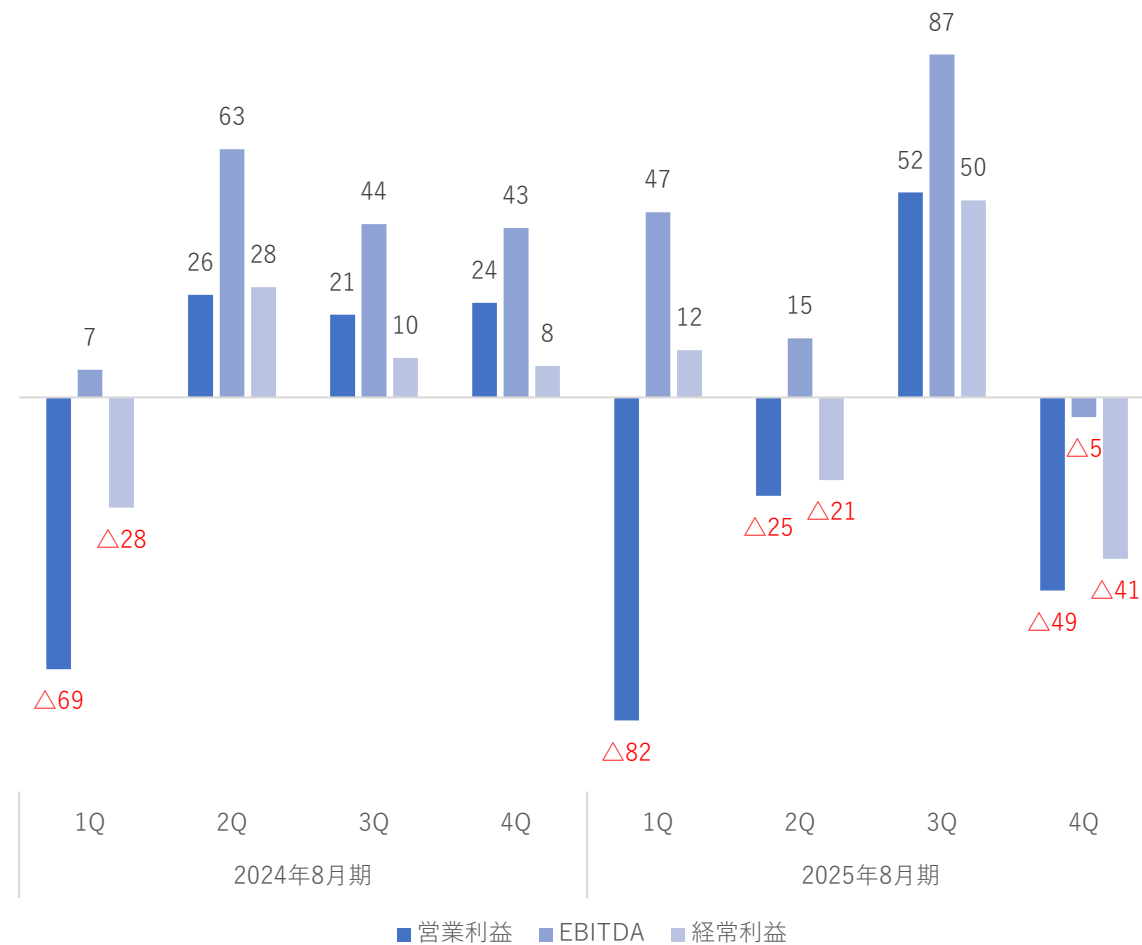
GPUサーバー 売上高/売上総利益推移

(単位：百万円)



GPUサーバー 営業利益/EBITDA/経常利益推移

(単位：百万円)



(単位：千円)	2024年8月期				2025年8月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高合計	877,890	1,156,695	999,052	1,376,898	1,363,578	1,398,544	1,491,471	1,460,436
AIソリューション事業	672,836	691,431	685,210	1,013,335	1,200,700	1,127,434	1,115,695	1,182,579
GPUサーバー事業	206,553	490,313	316,992	367,312	166,178	274,109	378,476	282,237
消去調整	△1,500	△25,050	△3,150	△3,750	△3,300	△3,000	△2,700	△4,381
売上総利益合計	236,853	432,613	359,494	445,551	433,712	453,037	470,431	374,763
AIソリューション事業	169,709	196,816	183,836	275,856	375,193	329,221	269,738	226,645
GPUサーバー事業	68,644	260,846	178,807	173,445	61,819	126,816	203,295	150,843
消去調整	△1,500	△25,050	△3,150	△3,750	△3,300	△3,000	△2,602	△2,725
販売費及び一般管理費合計	309,825	370,539	328,881	426,726	463,289	445,773	470,060	414,667
AIソリューション事業	172,680	161,624	174,664	281,674	323,202	296,225	322,270	217,412
GPUサーバー事業	138,641	233,964	157,366	148,802	144,426	152,779	150,634	200,171
消去調整	△1,497	△25,050	△3,150	△3,750	△4,340	△3,231	△2,844	△2,916

	2024年8月期				2025年8月期			
(単位：千円)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業利益・損失(△)合計	△72,971	62,073	30,612	18,824	△29,576	7,263	370	△39,904
AIソリューション事業	△2,971	35,192	9,171	△5,817	51,990	32,996	△52,531	9,232
GPUサーバー事業	△69,996	26,881	21,440	24,642	△82,607	△25,963	52,660	△49,327
消去調整	△2	—	—	—	1,040	231	241	190
EBITDA合計	11,060	105,598	56,980	52,013	122,357	85,723	50,147	40,226
AIソリューション事業	4,024	41,887	12,126	8,792	74,595	70,323	△37,338	45,927
GPUサーバー事業	7,039	63,711	44,853	43,220	47,762	15,399	87,486	△5,700
消去調整	△2	—	—	—	—	—	—	—
経常利益・損失(△)合計	△30,723	64,323	15,816	△1,945	54,541	28,891	△6,899	△16,758
AIソリューション事業	△2,613	35,524	5,767	△10,529	42,242	49,948	△57,458	25,207
GPUサーバー事業	△28,107	28,798	10,049	8,583	12,298	△21,057	50,559	△41,965
消去調整	△2	—	—	—	—	—	—	—
税金等調整前当期 (四半期)純利益・損失(△)	△35,589	64,323	6,968	△142,153	44,256	30,493	△285,675	△38,753
当期(四半期)純利益・損失(△)	△25,066	54,689	12,447	34,885	47,313	△9,361	△366,434	△15,517

グループインした株式会社BEXのファウンダー及び資本業務提携を実施した株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスに対して、第三者割当増資を実施したこと等により、**前期末と比較して、現金及び預金が300百万円増加、純資産は814百万円増加**しております。

(単位：百万円)	2024年 8 月期 期末	2025年 8 月期 期末	増減額
流動資産	3,028	3,056	+ 28
（うち現金及び預金）	1,613	1,914	+ 300
固定資産	1,889	1,788	△ 101
（うちのれん/顧客関連資産）	1,062	932	△ 129
資産合計	4,918	4,845	△ 73
流動負債	2,346	1,819	△ 527
（うち短期/1年内返済長期借入金 /1年内償還社債）	894	564	△ 330
固定負債	1,720	1,360	△ 360
（うち長期借入金/社債）	1,430	1,056	△ 374
負債合計	4,067	3,179	△ 887
純資産合計	850	1,665	+ 814
負債及び純資産合計	4,918	4,845	△ 73

会社概要

市場環境

競争優位性

成長戦略

経営指標

CONTENTS

Appendix

Case study 製造業 A社

生成AIで自社製品問い合わせ業務を効率化

RAG（検索拡張生成）システムの構築

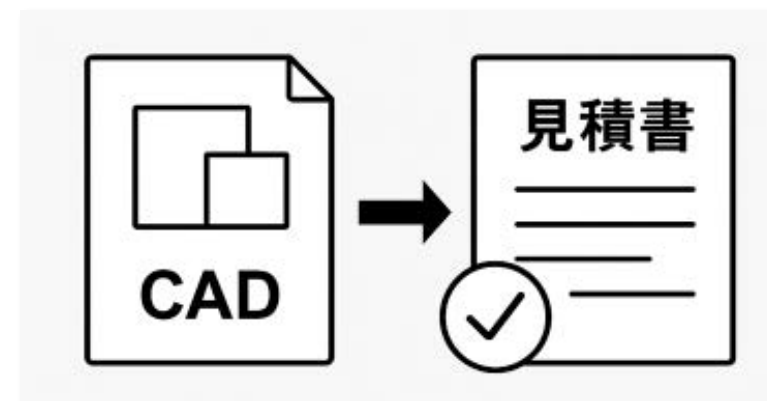


- ◆ 自社製品のマニュアルや過去のQAでRAG構築
- ◆ 既存のLLMで学習していないドメインデータや専門用語でも上手く回答できるようチューニング
- ◆ カスタマーサクセス部門の一次問い合わせの代行、作業時間大幅削減

Case study 製造業 B社

設計書図面(CAD)から見積書の自動生成

AIで自動作成、自動チェック



- ◆ 過去の見積修正履歴から、設計書の間違いを指摘提案
- ◆ 図面情報と自社対応する製品を組み合わせ、見積作成
- ◆ 作業者の作業を大幅に短縮、見積業務の属人化改善

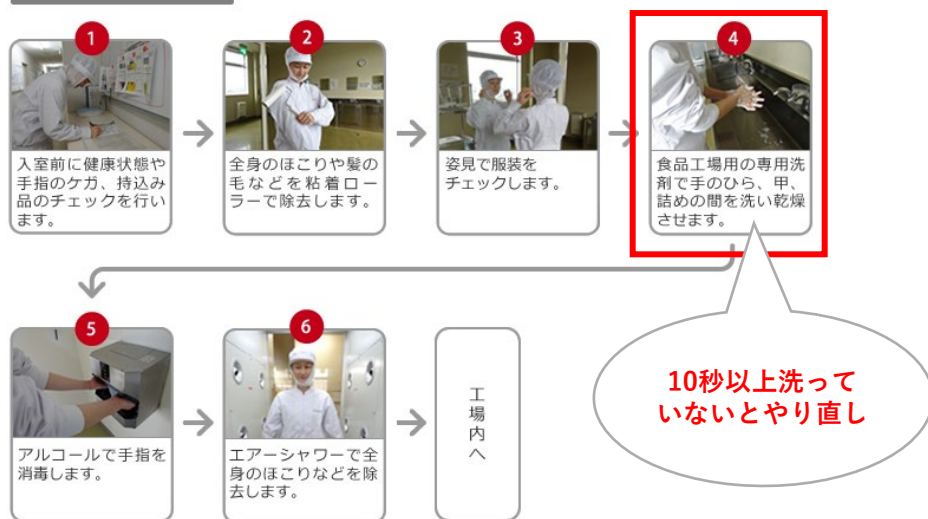


Case study 製造業（食料品）c社

食品工場における作業員の衛生チェック

顔認証AIを活用した業務管理自動化

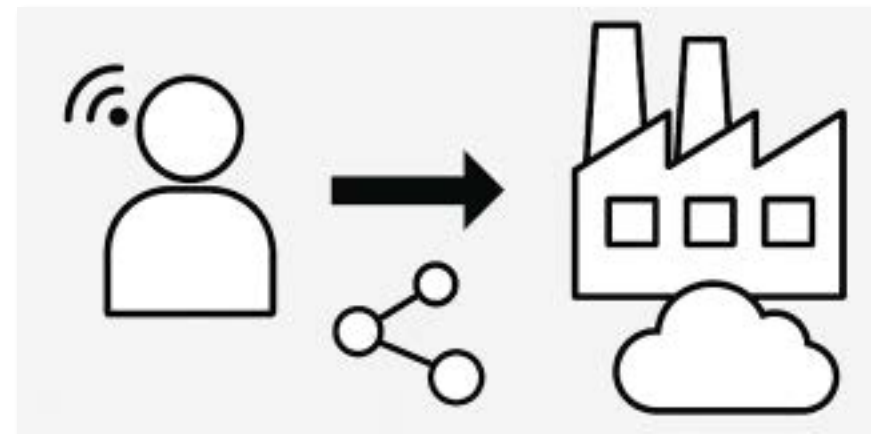
安心安全のフロー


<https://www.meijo.co.jp/security/factory/>

- ◆TOFセンサー*と顔認証を連動 *光の飛行時間を用いるセンサー
- ◆作業員がマスク・ゴーグル・手袋など装着しているか確認
- ◆作業員が白衣に着替えた状態で、静電気・コロコロ・除菌
- ◆衛生チェックをしていない場合は、工場内の入室ドアが開かないように制御

Case study 製造業 D社

工場における生産ライン設計の効果測定

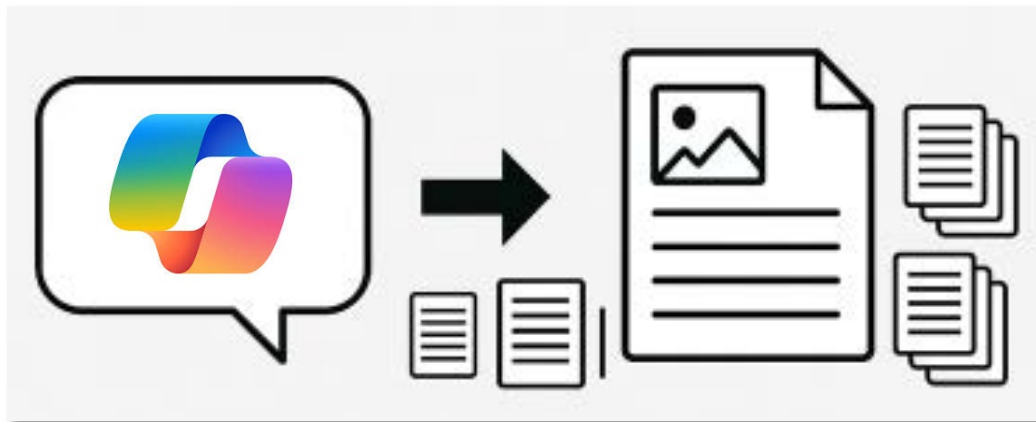
作業員の位置情報を可視化して
経路最適化と業務効率化に

- ◆Beaconを作業員に装着
- ◆工場に設置されたセンサーから位置情報を獲得
- ◆大量の人員と大量のトランザクションをAIがクラウド上で可視化
- ◆生産ライン設計の最適化にフィードバック

Case study 製造業 E社

社内向け生成AI導入サポート

セキュアかつ高速に業務活用を実現

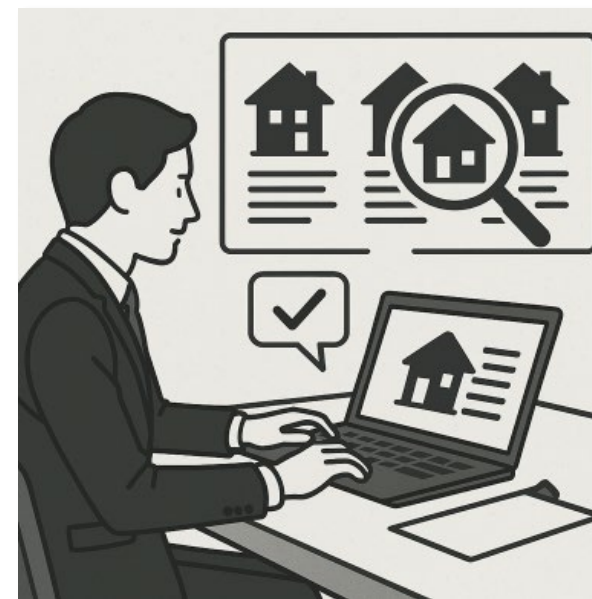


- ◆複数企業への導入支援を開始
- ◆最短2週間で構築可能な高速開発レシピを提供
- ◆セキュアな環境で画像生成AIも利用可能

Case study 不動産会社 F社

AIで物件提案を支援するPoC

データ分析とマッチングAIで営業を革新



- ◆統計モデルと機械学習により成約傾向を数値化
- ◆顧客属性と物件特性のベクトル化による類似度計算
- ◆高精度なレコメンドで営業活動の精度と効率を向上

Case study 印刷業G社

文書校閲AIの技術支援

BERTを活用し幅広い文書の
自動校閲に対応



- ◆契約書・約款・プレスリリースなど多様な文書に対応
- ◆誤字脱字や二重敬語、表現の揺れを検出
- ◆専門用語の誤用や不適切表現も添削

Case study 飲食チェーンH社

画像認識AIによる調理品判定

レストランの提供品質を
AIで可視化・管理



- ◆厨房とホール間に設置したカメラで料理を自動判定
- ◆提供時間をAIが自動で計測しオペレーションを改善
- ◆将来的には盛り付けの正確さもAIで評価

Case study 製造業I社

よりセキュアなAI導入

エッジAIによる機密性の
高い現場での顔認証

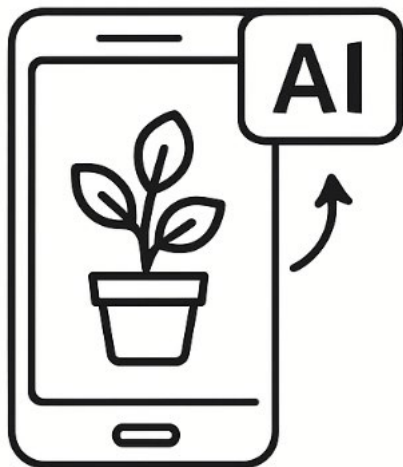


- ◆クラウド未使用環境に導入可能
- ◆産業用CPUボードやGPUエッジ端末への組込実績あり
- ◆セキュアな顔認証を現場単体でリアルタイムに実行

Case study アプリ開発 J社

植物判定AIの精度を大幅改善

画像判定アプリの機能を
画像認識技術で強化



- ◆AI判定精度を50%から90%以上に向上
- ◆犬猫など非植物画像との判別精度も向上
- ◆品種追加やメンテナンスが容易な設計実現

Case study 生花ECサイト K社

生花トレンド可視化システム

SNSと出荷量データを統合
需要を分析

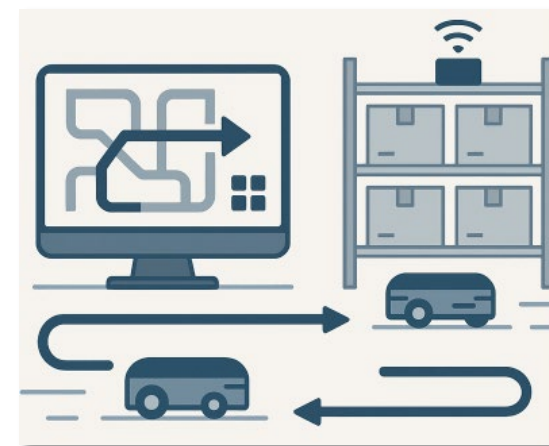


- ◆生花ECサイトと卸売市場の情報を連携分析
- ◆品種ごとのSNS反応と出荷量の関係性を可視化
- ◆バズ検知や傾向分析で仕入・販促をデータで支援

Case study 物流業 L社

無人搬送車の経路最適化AI

倉庫内搬送効率向上に向けたPoC



- ◆ヒューリスティック手法で渋滞を回避し再ルート提案
- ◆モンテカルロ木探索により搬送量を考慮した経路選択
- ◆強化学習で自己学習し搬送効率最大化を目指す設計

項目	リスク	対策	発生可能性	影響度
事業環境の変化	AIソリューション事業の領域には国内外多くのIT企業が参入しており、市場は形成期にあります。生成AIによる大きな変化が生じる中で、事業環境がさらに大きく変化する可能性があります。	最新の技術動向や市場環境の変化を把握できる体制を構築、AIに関する論文のサーベイ、マーケティング調査の実施のみならず、業界のオピニオンのキャッチアップを仕組み化しております。	中	中
画像データの利活用に関する法令などの規制	単に個人情報保護法等の法令を遵守するのみならず、プライバシー保護の観点より考慮する必要があります。関連する法令等が改正され、あるいは社会的な要請が大きく変化した場合には、事業に影響を及ぼす可能性があります。	総務省・経済産業省より公表された「カメラ画像利活用ガイドブック ver.3.0」（2022年3月）を参照し、法令及び社会規範上認められると判断した範囲内において、画像情報の利活用を行っておりますが、今後も関連法案の修正に備えセキュリティ技術の向上に努めております。	中	大
個人情報の保護	「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者として義務を課されており、プライバシー保護の観点から広範な配慮が求められています。情報の漏洩、不適切な利用等について配慮が不足した場合には、レピュテーションリスク等によって事業に影響を及ぼす可能性があります。	情報の漏洩防止はもちろん、不適切な利用等の防止のため、情報管理を経営上の重要事項と考え、社内においてもこれらの情報へのアクセスを制限するとともに、「情報セキュリティ管理規程」「個人情報取扱規程」等を制定し、全従業員に対する社内教育を実施するなど、法令及び関連するガイドラインの遵守体制を整えております。	中	大
暗号資産の市場価格の変動	株式会社ゼロフィールドは、暗号資産のマイニングマシンの販売を主な事業としております。暗号資産の市場価格はボラティリティがあるため、当該価格が低迷する場合、マイニング報酬が減少するため、同社の顧客層のマイニングに対するインセンティブが損なわれ、販売活動に影響を及ぼす可能性があります。	これまでの販売実績をベースに、市場動向に合わせた販売施策を実施しております。加えて、暗号資産の市場価格の変動に左右されない、高性能GPUサーバーの販売やデータセンター運営等の事業の拡大に注力しております。	中	大
固定資産の減損	株式会社ゼロフィールドおよび株式会社BEXの子会社化に伴い、のれんをはじめとした固定資産が増加しています。事業環境の変化に伴い、それぞれの事業が計画通りに進捗せず、将来キャッシュ・フローの低下が見込まれる場合等には、減損損失を認識する必要があります。多額の減損損失を認識した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。	株式会社ゼロフィールドおよび株式会社BEXのグループイン後、それぞれの会社に当社より取締役を派遣し、また当社管理部門の事業管理業務への参画により、ガバナンスを強化し、また既存事業の運営だけでなく新規事業開発に共同で取り組んでおります。	中	大

- 2025.07.01 トリプルアイズが「LINE WORKS Partner Award 2025」にて「The Best Collaboration」を受賞
- 2025.07.07 トリプルアイズグループ会社のゼロフィールドがマックハウスと暗号資産事業に関する基本契約を締結 豊富な知見と実績を活かし、暗号資産事業の戦略的な立ち上げを支援
- 2025.07.22 トリプルアイズグループ会社のゼロフィールドが米国に3拠点目となるデータセンターを新設 ―ビットコインマイニングインフラの米国展開を加速し、電力コストと稼働信頼性を両立―
- 2025.07.31 トリプルアイズがLINE WORKS社とセールス & サポートパートナー契約を締結
―現場のDXを一步先へと進めるパートナーとして、導入から運用までしっかりと伴走
- 2025.08.04 トリプルアイズが顔認証AIで精度向上を実現―AIZE「model_6」は低品質画像にも対応
- 2025.08.08 トリプルアイズの顔認証AIがカオナビ「ロウムメイト勤怠」と連携開始
―顔認証による打刻でペーパーレスな勤怠管理を実現―
- 2025.08.22 トリプルアイズグループ会社のゼロフィールドがリミックスポイントとマイニング事業者向け電力サービスの共同検討を開始
- 2025.10.01 人とAIが共生する未来を創る若きリーダーを育む～中高生向け実践的AI講座を千葉大学と共同で開催

2023年8月期以降、株式売買高の反応が相対的に大きかったリリースを任意に記載しております。

2023.04.17	4月17日（月）夜10時より放送のWBS内にてトリプルアイズの顔認証技術が紹介されます	メディア
2023.07.27	株式会社ゼロフィールドの 連結子会社化について	M&A
2024.04.15	「LINE WORKS」と連携 顔認証アルコール検知システム「AIZE Breath」	新サービス
2024.04.22	大規模自治体で初、世田谷区がAI顔認証を勤怠管理に採用―非常勤職員向けにトリプルアイズが提供	新サービス
2024.05.27	自動車×AIの融合でオンリーワン企業へトリプルアイズ、BEXをグループイン	M&A
2024.08.28	募集新株予約権（有償ストック・オプション）の発行に関するお知らせ	開示情報
2024.09.05	半導体業界トップの知見を活かしGPUサーバー事業を加速 ―ゼロフィールド技術顧問にNEC初代スパコン開発者の久保江勝二氏が就任	開示情報
2024.09.17	株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングスとの資本業務提携、 第三者割当により発行される株式の募集に関するお知らせ	開示情報
2025.01.16	製造現場のAI化を推進！ トリプルアイズとイノテックがエッジ顔認証を共同開発	新サービス
2025.07.07	トリプルアイズグループ会社のゼロフィールドがマックハウスと暗号資産事業に関する基本契約を締結 豊富な知見と実績を活かし、暗号資産事業の戦略的な立ち上げを支援	開示情報
2025.07.22	トリプルアイズグループ会社のゼロフィールドが米国に3拠点目となるデータセンターを新設 ―ビットコインマイニングインフラの米国展開を加速し、電力コストと稼働信頼性を両立―	開示情報

AI	AI(Artificial Intelligence：人工知能)とは、人間の知的ふるまいの一部を、ソフトウェアを用いて人工的に再現したもの。経験から学び、新たな入力に順応することで、人間が行うように柔軟にタスクを実行する。
特徴量	特徴量とは、コンピュータが学習するデータにどのような特徴が含まれているのか数値化したもの。
エンジン	エンジンとは、特定の情報処理を実行するためのひとまとまりになったソフトウェアやシステムなどのこと。
システム インテグレーション	システムインテグレーション（System Integration：SI）とは、企業の情報システムの導入に際し、ユーザーの目的に応じた企画の提案からハードウェア、ソフトウェアの選定、システムの開発や構築、運用までのトータルなサービスを提供することを指す。
DX	DX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）とは、「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念であり、企業においては、概ね「AI、IoT、クラウドコンピューティングなどのテクノロジーを利用して、ビジネスモデルや製品・サービス及び業務・プロセス・組織風土を変革させ、競争優位性を高めること」という意味合いで用いられる。
Sier	Sierとは、クライアントの業務を把握・分析し、その課題を解決するようなシステムの企画、構築、保守・運用までの全工程を一貫して請け負う業者を指す。
ブロックチェーン	ブロックチェーンとは、データが地理的に離れたサーバーに分散保持され、一定の形式や内容のデータの塊（ブロック）を改竄困難な形で時系列に連結していく技術。
IoT	IoT（Internet of Things：モノのインターネット）とは、あらゆる「モノ」がインターネットに接続される仕組みのこと。
オンプレミス	システムの稼働やインフラの構築に必要となるサーバーやネットワーク機器、あるいはソフトウェアなどを、使用者が管理している施設の構内に機器を設置して運用することをいう。
マイニング	暗号資産（仮想通貨）のマイニングとは、取引などのデータをブロックチェーンに保存する作業を行い、その報酬として暗号資産を得る行為のこと。
プロンプトエンジニアリング	生成AIは、命令（プロンプト）の出し方によって、出力されるコンテンツの質が大きく異なるため、AI（人工知能）から望ましい出力を得るために、指示や命令を設計し最適化する技術のこと。
ファインチューニング	機械学習において、大量のデータで事前学習されたモデル（事前学習済みモデル）に対して、解きたいタスクに応じた独自のデータを追加で学習させ、新たな知識を蓄えたモデルを作り出す技術。
GPGPU	General-purpose computing on graphics processing unitsの略。GPUの演算資源を画像処理以外の目的に応用する技術のことである。
トークン	企業または個人により、既存の暗号資産（仮想通貨）をプラットフォームとして、そのシステムを間借りする形で発行される、独自のブロックチェーンを持たない暗号資産のこと。広義では、既存の暗号資産そのものをトークンと呼ぶこともある。



Realize Customize Maximize
TRIPLEIZE

免責事項

- 本資料は、当社の計画、見通し及び戦略に関して、適切な理解を促進することを目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。投資に際しては、投資家様ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。
- 本資料に記載された全ての数値、指標等が監査法人による監査又はレビューの対象ではない点にご留意ください。